

松島吉十郎談話筆記

ここに紹介する「松島吉十郎談話筆記」は、談話者松島吉十郎が明治初年の三井組御用所および創立期の三井銀行に勤務した当時の体験談を取録したもので、大正元年（一九一二）一月二、三両日に三井家編纂室主任岡百世が聴き取り、同室嘱託員の長谷川篤が速記したものである。

談話者松島吉十郎は、上総一宮藩、加納家（一万三千石）の家中の子弟である。幼名を金之助という。慶応元年（一八六五）四月に藩主加納大和守が三井両替店一行を在所に招待した時、実父齋藤辰蔵は勘定役兼徒目付として一行の送迎役を勤め、金之助も給仕役を与えられた。一行の滞在中、金之助の気のきいた接待ぶりに目をとめた同店元方掛名代齋藤専蔵が、翌二年に金之助を養子に迎え、自己の商売を手伝わせたという。

齋藤専蔵は明治四年九月に名を純造と改め、翌月設置された東京大元方のトップに立ち、その後三野村利左衛門をよく引き立て

て三井家改革時には、三野村と共に中樞に位置した人物である。そしてその三野村利左衛門は、両替店一行が上総一宮に招かれたさい、出入商人紀伊国屋利八として随行しており、翌慶応二年（一八六六）一〇月に「三井御用所限り通動支配格」という破格の待遇で三井に入ったのも、その能力を齋藤専蔵が見込んでのことといわれている。金之助にとって三井の主軸たる二人の人物が、このように身近かな存在であったことは、まず幸運であったといえる。

金之助は明治四年（一八七一）始め頃一九歳の折、改めて先代松島吉十郎（当時大元方勤江戸御用所詰後見役）の養子に入った。松島家の本家は、三井の別宅のなかでも特に功績のあった上級手代に与えられる家督の由緒を持つ家柄である。代々「太助」を名乗り、老後は「林右衛門」を襲名している。初代太助は、寛政二年（一七九〇）一〇月に江戸向店大元メ役本店兼帯という、

手代としては最高の地位に昇りつき、文化三年（一八〇六）九四歳まで勤め上げた。金之助の養父吉十郎は三代目太助の二男であり、この初代太助の孫にあたる。

金之助の養父すなわち初代松島吉十郎は、安政六年（一八五九）七月四五歳の時に人材登用をもって店限りの「組頭格」の待遇で、江戸両替店に迎え入れられた。この口入をしたのがやはり當時通勤支配役であった斎藤専蔵である。吉十郎は慶応三年（一八六七）三月に病いを理由にいったん退職したが、翌四月には再度請われて江戸御用所雇いとなり、さらに同年九月、大元方勤江戸御用所詰通勤支配として再勤、明治二年（一八六九）には後見役となった。しかし翌年には跡相統者の必要に迫られるほど、病いが重くなっていた。学問に造詣が深く、没後「無究深達」という戒名がつけられている。

この養父吉十郎が明治四年六月に没したその年一月に、金之助が御用所に出勤する。入ると直ちに帳簿一切を任せられ、あたかも海運橋に三井組ハウスを建設しようという時期であったから、それらの経理事務にも多く携わった、と後述する「実歴覚書」の中で語っている。翌明治五年四月に二〇歳そこそこで「平」から「組頭」に抜擢されたのは、松島家の家柄だけでなく、三井首脳部の実力尊重の方針によるものであったろう。明治六年五月帳合方諸役所懸引方助勤、同年六月九等席となる。八月には支配役場詰を申し渡された。支配役場詰は等席に拘らず、すべての懸引方の助けを専らとし、相談し合って店内一般の取締に当る、という

重要な任務を持っている。松島金之助が二代目「松島吉十郎」と改名したのはちょうどこの頃である。明治七年（一八七四）四月八等級に昇進し、ついで七月函館出張所詰となり、弱冠二二歳ながら三井組名代として赴任、一店の責任ある立場となる。そして本談話にあるように、荷為替取扱いは開始したり、冬場の石炭の騰貴を見越しての買占めをするなど、本店からの仕送りに頼らず独自の収益を上げる、という経営手腕を見せる。翌八年八月頃麻田佐右衛門と交代に帰京、その後貢米荷為替取扱準備のため、名古屋、岐阜、三重三県の支店調査に出張したという。

この時期、松島が「同志」と呼ぶ、三野村利左衛門の信頼を得て活躍した七人の人々がいる。本文中にもしばしば名前が挙げてくるので、参考までに明治九年の「三井銀行人名簿」（三井文庫所蔵史料 銀行二一）から、それらの人々を書き出しておこう。

東京	六等	支配役兼	平尾賛平
東京	七等	府県掛取締	斎藤銀蔵
東京	七等	支配役兼	藤田富之助
東京	七等	官金掛取締	高野栄二郎
東京	八等	取締	藤田富之助
東京	八等	副支配役	松島吉十郎
東京	八等	兼精算掛	向井小右衛門
東京	八等	兼精算掛	小右衛門
東京	九等	第一国立銀行動	田豊次郎
東京	九等	官金掛副取締	長田豊次郎

(3) 談話中には「桜井徳兵衛」とあるが、松島の記憶違いである。桜井は「等席人員調書」(三井文庫所蔵史料 本五二七)の明治八年函館詰員中、松島吉十郎の次に名を連ねているが、交代用員ではない。

(4) そのほか、理由はわからないが長田も明治一二年に、齋藤は二一年に、向井は二五年にそれぞれ中途で退職している。高野のみ二等まで昇進し、明治三三年まで勤めた。

(5) 齋藤専蔵は初め辻銀蔵といい、明治三年三月二代目齋藤専蔵(のち純造)の養子となり、齋藤姓となったが、養父専蔵の翌明治四年九月に純造と改名したのと同時に、銀蔵が三代目齋藤専蔵を襲名した。

本文中に登場する齋藤銀蔵はまた別人で、純造が三代専蔵の弟分として養子に入れた飯田甚之助のことである。齋藤銀蔵は俳諧の九世雪中庵雀志として知られる。

なお、前号「田中九右衛門翁談話筆記」解説中に辻銀蔵を二代目齋藤専蔵としたのは誤りである。

凡例

- 一、漢字は通用の字体を用いた。
- 一、合字の「𠄎」^一、およびおくり仮名として使われている「子」は、それぞれ「トモ」、「コト」、「ネ」になおした。
- 一、読みやすくするため、句読点を適宜になおしたところがある。

一、本文中には例えば三野村利助をもと今井喜兵衛とするなど、談話者のあきらかに記憶違いと思われる箇所もあるが、いちいち訂正をしていない。

松島吉十郎氏談話

大正元年十二月二日及三日於三友俱樂部
聴取之長谷川篤速記ヲ担任ス

上総一宮藩主加納侯ハ三井家ト古キ由緒ガアリマスノデ、元治元年ノ夏、恰度私ガ十三歳ノ時、三井家ノ御主人ヲ招待シマシタ。此時御出ニナツタノガ今ノ男爵ノ御兄様ノ高朗君、其當時次郎右衛門ト仰シヤイマシタ、其供人ガ其當時ノ斎藤専藏(後純造)永田甚七、外二十二、三名デゴザイマシタ。一ノ宮滞在ガ七日程デ、私ノ実父ガ藩主カラ送迎ノ役ヲ吩咐ツタ。

(岡)ドウ云フ御資格ダツタノデスカ。

極軽輩デ、徒目付デゴザイマシタ。勘定ノ方ヲ兼ネテ居ツタモノデスカラ、江戸ノ三井ノ迎ニ行ケト云フ命ヲ承ケテ、送迎共ニ致シマシタ。

(岡)接伴員デスナ。

サウデス。私ガ恰度十三歳デ、藩ノ御殿デ給仕ヲ致シマシタ。其時三井家カラノ御進物ガ小サナ「オルゴール」、ソレニ巻物ガ一卷、巻物ハ見マセヌデゴザイマシタ。

(岡)「オルゴール」ト云ツテモ、其當時ハ大シタモノデセウ。

後デ聞キマシタラ、代価二十五円ダツタサウデス。藩デハ非常ニ鄭重ナ響デ、海岸デ昼夜狼煙ヲ上ゲマス、ソレカラ地引網、或ハ川デ鯉巻ヲシマストカ、又藩士ニ擊剣ヲサセマストカ、七日許ノ間、ソレハ尽スダケノ事ヲシマシタ。其縁故デ私ガ斎藤ニ貰ハ

レマシタ、即チ其翌年、私ガ十四歳ノ時デゴザイマシタ。

(岡)海岸デ花火ヲ揚ゲタト云フノハ其時ノ事デスカ。

サウデス。其當時三野村氏ハ、ヤハリ供ニ参ツタノデゴザイマス、マダ三井家ニ入ラス前デスガ、所謂取巻デ参ツタノデゴザイマス。其後私ハ斎藤カラ又松島ノ方ヘ養子ニナリマシタ、松島ノ養父ガ危篤デゴザイマシテ、斎藤ハマダ年モ若シスルカラ、松島ノ方ヘ遣ツタラドウダト云フ高朗サンノ御言葉ガゴザイマシテ、松島ノ方ヘ私ガ貰ハレルコトニナリマシタ。

(岡)松島家ノ事ニ就テ種々御記憶ノ事モゴザイマセウ、ソレ等

モ其処ヘ御話シ下サツタラ、順序上大変宜カラウト思ヒマス。私ノ家ノ事ハ、申上ゲスデモ、大概御承知デゴザイマセウ。

(岡)併シ此ニハ書イテ置キマセウ、貴所ノ御記憶ノ事デ、何カ目立ツタヤウナ事デモアツタラ御話シ下サイ。

松島ノ方ハ、祖先慶翁ガ三井家ヘ入りマシタノガ享保十四年、慶翁ガ十四歳ノ時デゴザイマス。サウシテ九十五歳マデ、勤続八十年、私ノ先代吉十郎ガ三井家ヘ入りマシタノハ、チョット分リマセヌガ、石町ニ別ニ店ヲ持ツテ居リマシタ、ソレヲ仕舞ツテ兩替店ヘ入りマシタ。

(岡)御先代ハ御養子デスカ。

サウデヤゴザイマセス、実子デゴザイマシタ。兩替店ヘ入りマシタ時ニ、共ニ店ノ者ヲ三人連レテ入ツタ、其一人ガ後ニ物産ノ重役ヲシタ拝司栄造、皆元ノ手代デゴザイマス。

(岡)文久ノ火事ノ時ニ、魚河岸ガヤツテ来タ騒ガアリマシタ。

其時、揮司柴造ト云フ者が出テ弁解ヲシタコトガアリマス、ソレハ先々代デセウネ。

ソレハ私共聞イテ居ル、紀州様ノ人が来マシテ「富士の裾野の朝かぶり裏が五両で表十両」ト云フ……サウスルト其ノ養子デゴザイマセウ。私ノ先代ハ幼年カラ書物ガ好キデ、仏学ヲ余程ヤリマシタ。鎌倉ノ円覚寺、建長寺へ始終行キマシテ、仏書ヲ読ミ居リマシタ。ソレカラ千葉周作ノ門人デ、撃剣ヲヤリマシタ。今ノ八郎次郎様ナドハ、私先代ガ始終宅へ御呼び申シテ、書物ヲ何シテ上ゲタノデゴザイマス。駒込ニ宅ノ別荘ガアツテ、其方へモ御出ニナリマシタ、其御手紙ガ沢山ゴザイマス。サウ云フ都合デゴザイマシタカラ、三野村利左エ門ニ最初カラ使ハレマシテ、殊ニ私ガ斎藤純造ニ貰ハレマシタモノデスカラ、大変親密ナ關係ガ其処ニアツテ、内部ノコトハ多ク私ノ耳ニ入りマシタ。

ソレカラ明治四年ノ夏、私ノ養父ガ歿シマシテ、其年ノ冬十一月デゴザイマシタ、初メテ私ガ御用所へ出勤致シマシタ。當時御用所ハ鉄砲洲ノ明石橋ノ側デゴザイマシタ、元ト諸侯ノ邸地デゴザイマシタカラ、甚ダヒドイ処デ、実ニ雨露ヲ凌グダケノ事デゴザイマシタ。重役ガ三野村利左衛門、京都カラ西田善助ト云フ人が来て、其二人ガ重役ヲシテ居リマシタ。私ハ出マスト直ニ帳面ヲ記ケロト云フコトデ、帳簿一切私ガ担当致シマシタ。其翌年ノ春ト思ヒマシタガ、是ハ貴所ノ方デ御分リニナリマセウ、海運橋ニ移リマシタ。

(岡)御用所ノ初ノ仕事ト云フモノハ、ドンナ仕事デシタ。

御用所ハ當時旧幕府ノ貸付ノ残金ガゴザイマシタ。其残務ト、外務省ノ御用、ソレカラ築地ニ運上ト云フモノガゴザイマシタ、是ガ外務省ノ管轄デ、外ニ開墾会社ト云フモノガゴザイマシタ、下総ノ原野開墾、ソレ等ノ御用ガゴザイマシタ。店員ガ僅ニ七、八名デゴザイマシタ。當時ハ鉄砲洲一帶ハ居留地デゴザイマシテ、外国人ガ居リマシタカラ、四方ニ閨門ヲ設ケテ、余程嚴重デゴザイマシタ。

(岡)「ホテル」ナドハ其時設ケタノデスカ。

「ホテル」ハ已ニアリマシタ、五年ニ丸ノ内ノ会津様ノ屋敷カラ火ガ出マシテ、築地デ「ホテル」ト商社ト——御用所ノ隣ニ商社ガアリマシタ——商社ト「ホテル」ト門跡ト、此三ツノ大伽藍ヲ皆焼イテシマツタ。私宅ナドハ危カツタガ、好イ塩梅ニ残リマシタ。此當時ノ事ヲ知ツテル者ハ私ヨリ外ニアリマスマイ、中西ト言フ老人ガ一人居リマシガ、モウ八十八カ九十許リニナリマセウ、此人ガ少シ當時ノ事ヲ知ツテ居ル。

(岡)今デ云フトドノ辺ニナリマセウ。

私宅ノゴザイマシタ処ガ今樹ガ残ツテ居リマス、門跡ノ横ヲ參ツテ突当ツテ、彼処ニ工手学校トカ云フ学校ガアリマス、其学校ノ処ニアル橋ガ界橋ト言ツテ、ソレニ並ンデ向フニ明石橋ト言フノガアリマシタ、橋ノ側ニ派出所ガゴザイマス、アノ一廓デゴザイマシタ。私宅ノ跡ハスツカリゴザイマス。

(岡)其時分ノ写真デモ残ツテ居リマセスカ。

写真ハゴザイマセス、マダ東京デ写真師ノナイ時分デゴザイマン

タ。

(圖) 繪草紙ハアリマセスカ。

何モゴザイマセス、ドウモ併シ徴々タルモノデゴザイマシタ。ソレカラ海運橋ニ御用所ガ移リマシタ、今ノ第一銀行ノアル裏手ノ方ノ、元ト牧野ノ邸地ノ物見ノ中デゴザイマシテ、狹隘不潔、噓フルニ物ナシト云フ家ナノデス。元來鉄砲洲ニ、伊豆七島ノ物産ヲ扱ツタ島会所ト言フモノガゴザイマシテ、是ハ三井家ノ本店ノ所轄デゴザイマシタ、其島会所ガ後ニ島方トナリ、ヤハリ海運橋ノ御用所ノ一隅ニ同居シマシタ。儲御用所ガ海運橋ニ移ルナリ、程ナク大藏省デ証券二千万円ヲ発行スルコトニナリ、同時ニ開拓使デ又八百万円ヲ発行シマシタ、ソコデ為換座三井組ト言フコトニナツテ、アノ証券ヲ各地デ金貨ト交換スルコトノ保証ヲシテ、其紙幣一切ノ取扱ヲ命ゼラレマシタ。ソレデ俄ニ業務ガ膨張シマシタモノデスカラ、朝早くカラ出テ殆ト夜ノ十二時位マデ業ヲスル、店員ガ漸ク増加シテ三十名位ニナリマシタ。

其島方ガ後ニ変ツテ國産方トナリ、拝司榮造ナドハ其方ニ行キマシタ。ソレカラ國産方ガ再變シテ物産会社トナリ、益田サンガ御入りニナツテカラ俄ニ業務擴張ヲ致シマシタ。アノ當時私モヨク覺エマセヌガ、十五万円——二十万円モ三井家ノ方デ当座ヲ組ンダ管デゴザイマス、ソレガ資本デ物産会社ヲ起シマシタ。

ソレカラ紙幣寮ノ札ノ製造ノ命令ガゴザイマシタ、其ノ扱ニ人ガ足りナイト言フノデ、齋藤銀蔵ヲ兩替店ノ方カラ呼びマシテ、齋藤ガ紙幣一切ヲ担当シマシタ。ソレカラ新ニ女工ヲ採用スルコト

ヲ建議シマシタ、其時ガ紙幣頭ガ芳川サンデ、女工ヲ盛ニ使役シマシタ。今ノ幸堂得知、鈴木利兵衛ガヤハリ齋藤ノ部下デ、紙幣寮ノ下役ヲシテ居リマシタ。

引続キ社店ガ狹隘デ迎モイカスト云フノデ、第一銀行ノ前ノ建築、アレニ着手シマシタ、慥カ五年ノ冬ト思ヒマシタ。アノ建築ガ約五万以上六万円ノ見込デ、中西半造ガ普請方、請負人ガ清水喜助ト申シテ、始メテ川口ヘ鉄柱ヲ注文シマシタ。東京府下デ鉄柱ヲ用ヒタノハアレガ初デゴザイマス、ソレ迄曾テ無カッタ。

(圖) 折角ヤリカケテ讓ツテシマツタヤウナ形ニナツテ居ル。

左様デゴザイマス。ソレデ兜町繁昌ト云フ事ヲ私ガ此ニ書キマシタガ、元來彼処ハ御承知ノ通り、維新ノ功ニ依テ三井三家ヘ賜ツタ処、一廓ヲ三ツニ割ツテ、角ノ処ガ慥カ三井ノデゴザイマシタラウ。恰度為換座ノ隣ガ東京商社、物産会社ガ向フノ東南ノ角ダト存シマシタ。鐵ノ渡舟ヲ廢シテ鐵橋ヲ架ケ、海賊橋ヲ改メテ海運橋ト致シ、ソレハ一時ナカノ盛ナモノデゴザイマシタ。天下ノ糸平ト稱シタ田中糸平モ彼処ニ店ヲ拵エ、糸平ガ来テ相場ヲスル時ニハ、殆ト兜町一町マルデ鳴動スル位ノ勢デゴザイマシタ。

(圖) 銀相場ナドモ頻ニ行ハレタノデセウ。

左様デス。茲ニ清元菊寿ト云フモノガ新作ヲヤリマシタ。

鐵橋ハ一ノ谷ダヨ、相場ノ闘ヒ五貫ヒ三投シ、五階ヲ三保ノ屋兜町、声トバンクノ大流行リ

是ハ一時全市ニ鳴ツタ唄デゴザイマス、當時妓トシテ唱ハザルナク、客トシテ知ラザルナシト私ハ書イテ置キマシタ。

(岡)盛デシタラウネ。

ソレハ全ク盛ナモノデゴザイマシタ。之ヲ知ツテ居ル者ハ今ノ益田サンバカリデセウ、馬越サンガマダ来マセヌデシタ。其後馬越サンガ月給十二円カ十三円デ物産会社ハ入ツタ、湯吞所デ話ヲスルニ、当時物価ガ廉イガ、何ガ一番廉イダラウ、今度物産会社ニ入ツタ馬越ダラウ、馬越ノ月給ガ一番廉カラウナド、云ツテ笑ツタコトガゴザイマシタ。ソコデ業務ガ非常ニ繁劇ニナツテ、三野村ハ輕装シテ——大三野村ハ元来駒下駄ヲ穿イタコトガナイ、始終麻裏草履バカリ、アノ人ハ死スマデ駒下駄ハ穿キマスマイ。木綿ノ着物ニ皮色木綿ノ打裂羽織、白ノ小倉ノ袴、ソレニ大キナ長イ刀ヲ帶シマシテ、ソレデ東西ヲ稼ギ廻ルノデス、ナカノ勇氣ナモノデシタ。一時間ト坐ツタコトハナイ、私共ニ用ヲ吩咐ケルニモ、坐ツテ居チャイカヌ、立テト言フ、三野村ガ来ルト皆立ツテ、直立デ話ヲシナケレバナラス。其位ニヤリマシタガ、ドウモ往々失敗ガアリマシテ、一日検査頭得能了介ト言フ人ガ、為換座ノ準備金ヲ見ニ来マシタ。所ガ帳簿ガ整頓シナイ、半紙ノ横折ノ帳面——其時分ニハ一方ハ三井組御用所、一方ニ為換座三井組ト二ツ看板ヲ掛ケマシタ、其為換座ノ方ガ諸県ノ取扱ヲ致シ、三井組御用所ハ幕府ノ貸付金ノ残務ト、各諸官省ノ御用ヲスルト言フコトニナツテ居リマシタ。ソレデ得能サンガ準備金ノ調査ニ来マシタ所ガ、帳簿ガ整頓シテ居ラス、非常ニ怒リマシテ、恰度三野村利助、其時分ハ今井喜兵衛ト云ツテ、大阪カラマダ来タバカリデゴザイマス、頗ル弁解ヲシタノデスケレドモ聴カナイ、非常ニ

怒リマシテ、誰モ仰イデ顔ヲ見ル人ガ無イ。ヒドイ顔色デシタナ、得能ト云フ人ハ——。「官金ヲ扱ヒナガラ、魚屋カ青物屋ガヤル様ナ帳簿ノ記ケ方ヲシテ居ル、甚ダ不都合デハナイカ」ト言ツテドウシテモ聴カナイ、抛ナクテ利助サンモ頭ヲ低ゲタキリデゴザイマシタ。属官ノ何トカ云フ人デゴザイマシタ、名ヲ忘レマシタガ、其人ガ何トカーツ帳簿ヲ調べサセマセウト云フノデ、纔ヤク調停シテ帰リマシタ。其時得能ノ考デハ、直ニ御用ヲ差止メテ「ソコヘ大三野ガ婦ツテ来マシテ、其話ヲ聴キマシテ」ト、直ニ其足デ大藏省ヘ行キマシテ、アノ時ノ卿ハ誰デゴザイマシタカ、大限サンデゴザイマシタカナ。

(岡)モウ大限サンデセウ。

其処ヘ行ツテ話ヲシマシテ「モウ宜イ、話ヲシテ来タ」ト云ツテ婦ツテ来マシタ、ソレデ皆ガ落付キマシタ。其頃洋銀ヲ各官庁ヘ売上ヲ致シマシテ、大分是ハ利益ヲ致シマシタ。サウ云フ事ノ競争ヲスル者ハ大倉喜八郎デゴザイマシタ。三回ニ一度位ハキツト大倉ガ入札デ取ルノデス、絶ヘズ三井家ノ先ヘ廻ツテハ彼ガ業務ノ妨碍ヲヤツタ、ナカノ豪イデゴザイマス。ソレデ大倉ハ常ニ大言シテ曰フニ、政府ノ出納御用ダケハ三井ノ専有デ、迺モ我輩デモ及バナイコトダガ、其他ノ事ナラ如何ナル事デモ、三井組ノスル事ナラ何デモ私ハ争フト言ツテ居ツタサウデス。三野村ハ司法省ノ御用ヲ頻ニ取ラウト思ツテ、江藤ノ処ヘ屢々迫ツタノデスケレドモ、彼処ハ川崎八右衛門ガ元カラヤ

ツテ居リマシテ、トウ／＼アレダケハ取レマセヌデシタ。アレト此埼玉県ヲ中井新右衛門ガヤツテ居リマシテ、此二ツダケハ余程苦シムケレドモ取レナイ、ツイ仕方ガナイカラ止メテシマハウト云フ事ニナリマシタ。

ソレカラ店員ノ断髪ヲ行ヒマシタ、ソレ迄ハ丁髷デゴザイマシタ。玆ニチヨット滑稽ガアルノデゴザイマスガ、三野村ガ来テ「斯ウ業務ガ盛ニナツテ来テハ、拙モ朝晩鬘ヲ撫付ケテ居ルヤウナ事デハイケナイカラ、一同髪ヲ斬ラウヂヤナイカ、一同ノ意見ハドウカ」ト云フト、家田忠次郎ト云フノガ私ヨリ先輩デシタガ、ソレガ「私共ハ固ヨリ断髪ハ希望スル事ダガ、凡ソ善イト思ツタ事ハ先ツ重役ガ一番ニシナケレバ可ナイ、貴所ガ一番先ニ手本トシテ御斬リナサイ、サウスレバ一同異議ナク行フカラ……」
「宜シ、デハ俺ガヤラウ」。ソレカラ二日、バカリ過ギマシテ髪ヲ斬ツテ来タデス。「アナタ御斬ナスツタカ」「今日雉子橋ヘ行ツテ、大隈サンノ面前デ斬ツテ来タ、サア是カラ一同斬レ」ト云フヤウナ勢、「宜ウゴザイマス、斬リマセウ」ト言ツタ所ガ、其中二八、九名ハ老人デ斬リタクナイ人ガアル、非常ニソレヲ忌ガル。「成程忌ガル人モアルダラウ、ソレハ決シテ遠慮ハ要ラナイ、明日カラ出勤ラシナイ方ガ宜イ、髪ヲ斬ルノガ迷惑ダト云フ者ヲ使フ訳ニハ行カナイカラ、明日カラ出勤ヲ御止シナサイ」、斯ウ云フ三野村ノ意見デ「委細承知シマシタ」ト云フ。翌日ニナルト皆、来ル幾日ニ法事ガゴザイマスカラ、其法事ヲシマツテカラ斬リマスト云フヤウナ輩ガ多イ、私共二十人許リハ皆其時ニ斬ツテ来マシタ。

サウスルト桜井徳兵衛ト云フ、チヨット年輩ノ人ガ居リマシタ。

(岡)桜井家督ノ家デスカ。

サウデゴザイマセヌ、是ハ御用所デ雇入レタ者、江戸児デ面白イ変リ物デシタ。ソレガ長谷川町ニ髷屋デ飯鬘ヲ拵ヘル親類ガアリマシテ、其処ニチャント吩咐ケテ散斬リ頭ノ飯鬘ヲ拵ヘタノデス、サウシテ澄シテソレヲ被ツテ出勤シテ来タ。工部省出役デ、年齢四十近ウゴザイマシタ。「桜井ガヨク髪ヲ斬ツテ来タ、斬ルマイト思ツタ所ガ今日桜井速ニ髪ヲ斬ツテ来タ、感心ダ」ト云ツテ皆不思議ニ思ツテ居ツタ。四、五日其儘出勤シテ居リマシタ。

(岡)分リサウナモノデスナ。

知レナイデス。サウスルト或日出役ノ途中デ、紙鳶カ何カ頭ニ引掛ケテ其飯鬘ヲ落シタノダサウデス、ソレデ事露現シテシマツタ。ソレヲ聞イタモノデスカラ、三野村ガ桜井ヲ呼ビマシテ、「桜井」「ヘイ」「貴公飯鬘ヲ冠ツテ居ルヂヤナイカ」「ドウモ恐入リマシタ、一言モゴザイマセス」「取レ／＼」「ヘイ」ソコデ兜ヲ取りマシテ、直ニ斬ツテシマツタ、即座謝罪デ事済ニナツタト云フヤウナ滑稽ガアル、誰モ知ラズニ居ツタ。

(岡)其時分ノ断髪ト言フノハ、私ノヤウナ頭ニスルノデスカ、

モツト長クデスカ。

長ウゴザイマシタ、サウシテ綺麗ニ分ケルノデス。ソレカラ為換座ヘ賊ガ参リマシタ、夜ノ二時頃デゴザイマシタ。

(岡)何月頃ノ事デスカ。

十一月頃ダラウト思ヒマスガ、大寒寒イ晩デ、私が宿直デゴザイ

マシタ。其頃ハ為換座ノ方ハ事務ガ盛デゴザイマシタカラ、人ガ四十幾人ト居リマシタ、二ヶ処ニ分レテ居リマシテ、島方ノ方ヘモ五、六名宿直シマスシ、総体デ四十五、六人、殆ト五十人ニ垂ントスル位。一番奥ノ室ニハ京都カラ中塚徳三郎ト云フ者ガ重役デ来テ居ツタ。ソレカラ森藤五郎、此二人ガ一番奥ノ室ニ居テ、其次ニ私、私ノ隣ニ家田忠次郎、ソレカラ以下三、四十人寝テ居ル。

(岡)ソソナニ沢山寝ルモノデスカ。

大勢デゴザイマシタ、其時分ハ通勤バカリデナク、居付キノ人多ウゴザイマシタカラ。当時加藤与助ト云ツタ麻田左衛門、林静雄、アノ人モ居タカト思ヒマス、何デモ傍ノ方ニ寝テ居タニ違ヒナイ。私ノ直グ隣ニ居ル家田忠次郎ガ、居ルダラウト思ツタラ枕バカリデ中ガ空ナノデス、吉原ニ盛ニ行ク時分デ、今日ハ松島ガ宿直ダカラ宜カラウナンテ、四十人居ルトマツ十人位ハ居ナカツタモノデス。ソレカラ夜中ニ、森サンガ私ノ枕元ニ米テ起ス声ガスルカラ「何デス、何カ来タノデスカ」ト云フト、二尺二、三寸アル長イヤツヲ抜イテ「金庫ヲ開ケロ、手前開ケロ」ト云ツテ、イキナリ私ノ処ヘ来マシタ「マア待ツテ下サイ、サウ言ツタテモ仕方ガナイ」ト、私ガ斯ウ床ノ中カラ顔ヲ出シタ所ガ、刀ヲイキナリ顔ノ処ヘ出シマシタ。

(岡)顔デモ覆ツテ居リマシタカ。

ドウモシテ居マセヌ「貴様起キテ金庫ヲ開ケロ」——私ノ頭ノ処ニ金庫ガアリマシタ。

(岡)何人デス。

一人デス、大キナ体格デ、持ツテ居ルモノモナカ々々長イ、禰ヲ掛ケマシテ、兎ニ角四十人カラ居ル所ヘ一人デ入ルノダカラ余程ノ胆玉デス。「御待テナサイ、今私ガ起キルカラ」「此金庫ヲ開ケロ」「ソレハ開キマセヌ、金庫ト云フモノハ係デナケレバ開カヌノデス、私モ始終金庫ヲ扱ツテ居ルケレドモ、自分デ手ヲ付ケタコトハナイ、且此金庫ノ内ニハ金ハアリマセヌ、総テノ貴重書類ノミヲ入レテアルノデ、縦令バ開ケタ所ガ駄目デス、用ヲ為サナイ」「ソソナラ金ノアル処ヲ案内シロ」「此処ニハアリマセヌ、金蔵ハ河岸ノ方ニアルノデス」「其処ヘ案内シロ」ソレカラ私ノ考ヘマスニ、ドウカシテ之ヲ戸外ヘ連出シテ、私ガ外シテ逃ゲルカ、或ハソレヲ逐出シテシマウカ仕ヤウト云フ考デ、私足袋ヲ穿キマシテ、スツカリ用意ヲシテ、提灯ヲ点ケテ居ル中ニ、森サンヤ何カ何処カヘスツカリ隠レテシマツタ、見ルト大分枕バカリノ処ガ多イ、私一人デス。成ベク悠々ト支度ヲシテ、玄関カラ外ヘ賊ヲ連レテ出マスト、「早ク金庫ノアル処ニ案内シロ」ト云フ、金庫ノアル処ハ、間数ニシテ三、四十間アルノデス、ソレカラ徐ロニ蔵ノ間ヲ導イテ、成タケ時間ヲ費サンシテ居レバ、其中ニ彼方デ警察ヘ届ケルカ何カスルダラウト思ツテ、其間十四、五分モヤリマシタケレドモ、一寸モ出テ来ヌ「ドウモ何処ヘ行ツテモ金庫ガ開キマセヌ」ト云フト「ソレデヤ俺ガ開ケヤウ」ト云ツテ、傍ノ戸ヲ刀デコデルト、遂ニ其処ガ開イテシマツタ。ズツト行クト直ク戸前デス、札ハ其時分長持ニモ入レテアレバ、バラデ東ネテ

アルノモアル。ソレヲ見タ所ガ俄ニ賊ガ顔ノ色ガ変ツテ、余程
氣ガ焦セルヤウナ塩梅デシタ、「開ケロく」と云フ「鍵ガ無ク
チャ仕様ガナイ、彼方ヘ行ツテ何か持ツテ来マセウ」ソレカラ来

ルト、ヤハリ私ニ尾行シテ直グ後ヘ随イテ參ツタ。サウスルト其
処ニ武田武次郎ト云フノガ寝テ居リ、其外ニモ五、六人寝テ居ツ
タ。其武田ト云フノヲ呼びマシタ。「松島サン何ヂヤ」「何ダヂヤ
ナイ、今少シ物ヲ搜スノダ」と云フト、イキナリ武田ノ処ヘ行ツ
テ、頭ヲ刀ノ背デ打チマシタ。武田ハ初メ夢ダト思ツタ、見タ所
ガ長イヤツヲ持ツテ居ルモノダカラ、驚イテ夜具ヲ被ツテ顛エチ
マツタ。ソレカラモウドウモ仕方ガアリマセヌカラ、則チ窮境デ
スナ、私イキナリ其処ニアツタ障子デスカ何デスカ覺ガアリマセ
スガ、ソレヲ取ツテ賊ニ投付ケルト同時ニ「賊ガアルカラ起キロ」
ト大声ヲ発シタ。サウスルト皆寢テ居ツタ者ガ、一時ニガタ／＼
ト逃出シタノデス、或ハ戸棚ヘ逃込ム者モアリ、玄關ニハ子供ガ
六、七人寢テ居ツタガ、十二、三人ノ人間ガ一時ニ逃出シタ。私
ハ障子ヲ二ツバカリ取ツテ投ゲタケレドモ、モウ何モナイ、ソレ
カラ島方ノ者ノ着テ居ツタ夜具ヲ取ツテ、ヨウヤク賊ヲ被セタノ
デス、スルトソレヲ刀デ払ツテ、モウ一太刀ヤラウト云フ所ヲ、私
ガ下ヘ伏シテシマツタ、纒ヤクソレデ免レタ。其ウチニ騒ガ大キ
イモノデスカラ、賊ガ大勢出テ来ルト思ツタト見エテ、店ノ子供
ヤ何カト一緒ニ外ヘ逃出シタサウデシタガ、幸ニ私ハ怪我ヲシマ
セヌデシタ。ソレガ出テシマウト、四十何人ガ残ラズ出テ来マシ
タ。夜ノ曉マデ騒ギマシテ、誰カ報知シタト見エテ、三野村父子

ガ車デ駈付ケテ来タ、ヨク併シ怪我が無クテ宜カツタト云フノデ、
私ニ褒美ヲ呉レマシタ、恰度私ガ二十一ノ時デゴザイマシタ。

(岡)ソレハ大手柄デシタネ。

余程落着イテヤリマシタモノデスカラ……。ソレカラ間モナク三
井小野ノ組合銀行ノ内命ガゴザイマシタ、組合銀行ノ場所ヲドウ
シヤウト、種々相談ガゴザイマシタガ、ドウモ適當ナ場所ガ無
イ、依テ今爲換座ニ新建築ヲシテ居ル、アレヲ譲ルコトニシタラ
宜カラウト言フ内議ガ起ツテ、三野村ヨリ特ニ私ニ其話ガアリマ
シタ。「ソレデハ吾々共大變ナ失望デゴザイマス」と申シタラ「ナ
ニ又宜イ考ガアルカラ、皆落胆セズニ居ルガ宜イ」と云ツテ、其
時始メテ私ハ耳ニシマシタ。

ソレカラ三野村ノ事デスケレドモ、明治五年ニ京浜間ノ鉄道ガ全
通シマシテ、其時ニ新橋デ開通式ガアツテ、陛下ノ行幸ガゴザイ
マシタ。恰度其二、三日前、或日ノ夕刻、三野村ガ私ヲ社ノ隅ノ
処ヘ呼びマシテ、袂カラ書イタ物ヲ出シテ「お前チヨツト之ヲ読
メ」と云フ。讀ンダ所ガ、行幸ノ時ニ捧ゲル祝文デ、横浜デハ高
島嘉右衛門ガヤリマシタ、東京デハ東京市民總代デ三野村ガ読ム
コトニナツタ。所ガ三野村ハ御承知ノ通り字ヲ知ラヌモノデスカ
ラ、近藤軌四郎ト言フ新宮サンノ弟子デ、八郎右衛門様ノ侍医デ
ゴザイマシタ、ソレガ祝文ノ草稿ヲ致シタ。

(岡)其人ハ文字ノアル人デシタカ。

是ハ文章モ詩モ出来マシタ。ソレヲ私ニ見セマシタ。ナカナカ難
シイ、私小ナ声デ讀ミマシタ所ガ、三野村ガ曰フニハ「モウ少シ

大キナ声ヲ読メ、ソレカラ又読ンダ所ガ、「モウ一度読メ」、「モウ一度読メ」ト、何デモ二、三度読ミマシタ。サウシタラ「モウ宜イ」ト云ツテ行カウトシマスカラ「是ハ貴所ガ近日新橋ノ行幸ノ時ニ御読ミニナル祝文デセウ、私ニ読マシテドウスルノデス、私ガ読ンダケデハ何ニモナリマスマイ」ト言フト「ドウモ読ミ悪クテ仕様ガナイ」「ソレデハ私ガ仮名ヲ付ケマセウ」ト云ツテ、直ニ鉛筆デ平仮名ヲ点ジタノデゴザイマス。二行バカリ私ガ書キマスト、「モウ宜イ、松島モウ宜イ」ト言ヒナガラ、其儘ソレヲ取ツテ懐中へ入レテ行ツテシマツタ、マアドウ云フ考デ居ルノカト思ツテ居リマシタ。サウスルト二日バカリ経ツテ、新橋ノ行幸ノ当日、私ハ西ノ方ノ棧敷ニ上ツテ見テ居ツタ、其時ニハ高福サンモ御出ニナリマシタ。暫ク見テ居リマスト、三野村ガ御前へ出マシテ、祝文ヲ手ニシテ大キナ声デ読ミマシタ、タントヂヤナイ一行カニ行、私ガ点ヲ打ツタ位読ンダノダラウト思フ、何分人ガ多ウゴザイマシテ充分ニ聴取レマセヌ、結局此首尾ガドウカト思ツテ心配シテ居タ。ソレカラ社店へ帰ツテ待ツテ居ルト、夕刻帰ツテ来マシタ、「今日ハ如何デゴザイマシタ」「ア、ヤツテ来タ、ケレトモ何ダ、私ハ天皇陛下ノ御前ニ出タ時真暗ニナツテシマツタ、辺リガ暗クテ分ラナカッタ、参議ノ面ナンドハドレモ見エナカッタ、唯私ノ傍ニ山尾庸三サンガ一人居ツタ、山尾ノ面ダケハ見エタケレドモ、アトハ些モ分ラナカツタ、ダカラ祝文ノ文字ナドハ読ミハシナイ」「デモ貴所大キナ声ヲシテ御遣ナスツタ」「ソレハサ、弁慶ヲヤツタ、安宅ヲヤツタンダヨ、安宅デ用ガ足リタ

ノダ」ト斯ウ言ヒマスカラ、私心ノ中ニ、ナカノ、エライ胆力ダト思ヒマシテ、実ニ感服致シマシタ。何デモ二行ハ本當ニ読ンダノデセウケレドモ、アトハ口ノ中デグズノトヤツテシマツタ。ソレデ又私ニ曰フニ「凡ソ利害ノ関係ノ無イコトハ、総テ斯ウ云フ遣リ方デ宜イモノダ、ケレドモ利害ノ関係ノアルコトハ決シテサウシチヤ行カヌカラお前達ハ、ヨク注意スルガ宜イ」、斯ウ云フ事ヲ云ハレタ、ソレハ誠ニ敬服シテ居リマシタ。

尚三野村ハ、常ニ私共ヲ戒メテ曰ヒマスノニ、凡百ノ事、繁ヲ省キ簡ヲ取レ、事用ハ立トコロニ弁ジ、重複ヲ煩ハス勿レ、長幼ヲ論シ礼節ニ拘ハル勿レ、奢侈ニ耽ル勿レ、衣服ヲ飾ル勿レ、長者ト雖モ理ノ在ル所ニハ屈スル勿レ、業ヲ捨テ、礼スル勿レ、時機ヲ失スル勿レ、平常能ク断ノ一字ヲ守レ、斯ウ云フ事サヘ守ツテ居レバ、決シテ時ニ臨ンデ過チガ無イカラト云フノガ、三野村ノ私共ヘノ訓戒デゴザイマシタ。

又懐旧ノ訓戒ガ、吾曾テ國ヲ去リ、雲水ノ如ク世ヲ渡リ、或ル年越後高田ニ赴ク、薄暮雪フルコト多ク、寒氣肌ヲ侵シ、手足凍疲シ歩行ニ艱ム、囊中余ス所僅ニ天保三百文、今宵ノ一宿ハ翌日ノ路用ヲ缺ク、思案数刻、東西ヲ彷徨ス、幸ニ軒端ニ薬ヲ堆ミアルヲ認メ、日暮レ人跡ノ絶ユルヲ計リ、徐ニ此ニ赴キ薬ヲ纏フテ一夜ヲ徹シ、曉人ノ未ダ起出デサルニ先チ、早々去リシコトアリ、吾此時ノ苦ハ常ニ忘レズ、今足下等青年、飽食暖衣猶足ラザルモノ、如クス、時ナル可シト雖モ少シク察セヨ、是ガ三野村ノ一番能ク言フ事デシタ。三野村ハ此艱難辛楚ヲ嘗メ、後江戸ニ来リ、

油ヲ担フテ渡世トス、齋藤専蔵其精力凡庸ナラサルヲ認め、三井家ニ薦メ重役ニ列ス、是レ三野村立身ノ端緒トス。

(岡)秋田ノ人デシタカ。
庄内デス。

(岡)ソレカラ大阪ニ行ツテ居ツタノデハアリマセヌカ。

諸方ヘ参ツタノデゴザイマス。

(岡)立ン坊ヲシテ居ツタト云フヤウナ噂ガアルノハ本当デスカ。

ヤツタニ違ヒアリマセヌ。

(岡)ドウシテ紀国屋ニ入ツタカ、伝説ハアリマセヌカ。

ドウモ深く存ジマセヌガ、油屋ニ奉公デモシタノデハナイカト思ヒマス、其時分ノ股引ダノ天秤ガ取ツテアルト言ヒマシタ。

(岡)三野村ノ家ニデスカ。

大三野ノ細君ガ丹誠シタ、継イデ拵ヘタ股引ガアルト云フコトヲ聞イテ居リマシタ。ソレカラ三井家ノ若主人ガ吉田清成ニ就イテ洋行シマシタ、野依周吉郎、吉岡吉太郎兩人ガ随イテ米国ヘ参リマシタ、是ガ米国ヘ洋行ノ初デゴザイマス。

(岡)其時ハ御送りデモ為サイマシタカ。

ゴザイマセヌデシタ。其前ニ政府ノ勸奨デ、三井家カラ永田甚七、松井由蔵ト云フ二人ガ洋行シマシタ。

(岡)アレハ三井家カラヂヤナイノデスカ、生糸カ何カノ事デ京都カラ行ツタノデセウ。

是ハ私共知ラス時分デゴザイマシタ——知ツテハ居リマシタケレ

ドモ、マダ三井家ヘ入ラス時分デゴザイマシタ。

(岡)アレハ表向三井家デハナイヤウデシタネ。

島田組カラモ参リマシタ、小野カラモ行ツタデセウ、為換会社ノ「バンク」ノ調ベニ参ツタノデス。極幼稚ナモノデ、何モ分ラズ掃ツテ来タ。ソレカラ吹田久則ト云フ人ガゴザイマシタ、モト四郎兵衛、通商権頭ニナリマシタ。

(岡)吹田勘十郎ト云フノガアリマシタネ。

アレハ甥デゴザイマス。此吹田ト三野村ト、両換店ノ二階デ、公務上デ大變激論ガゴザイマシタ。

(岡)ソレハ何時頃ノ事デス、仲ガ悪イノデスカ。

仲ガ悪イノヂヤナイケレドモ、詰リ意見ガ合ハナカツタ。非常ナ激論、其事柄ハ二階デ能ク分リマセヌデシタガ、其結果齋藤純造ト主人方ガ皆仲裁ヲシテ、纏ヤク和解シタノデゴザイマス。

(岡)吹田ト云フ人モ豪イ人デシタラウ。

其以来吹田ハ此方ヘ来マセヌデシタ、四等出仕デ、工部省ノ会計局長ニナリマシタ。

(岡)此人デセウ、有名ノ金齒ヲヤツタト云フノハ……。

アノ当時二百七十両トカ掛ツタ云トフ。ナカ々々岡サンハ能ク御聞及ビデゴザイマス。

(岡)始終コンナ事バカリヤツテ話ヲ聞イテ居リマスカラ。又私ガ知ツテ居ナイト、御話ヲ伺フニモ興味ガ乘リマセヌカラ、ヤハリ知ツテ居ルコトハ御話スルノデス。

ソレカラ両替店ト御用所ノ合併デゴザイマス。此合併ガ余程意見

ガムツカシウゴザイマシタ、兩替店ハ古來チャント慣例ノアル所
 デ、殊ニ立ツテ礼ヲスルナド、云フコトハナイ。御用所ハ実ニ集
 合状態デ、例ノ三野村ノ命令的ニヤル方デゴザイマスカラ、其間
 非常ナ混雜ガゴザイマシテ、人員ノ選抜、事務ノ管掌、ナカノ
 容易ニ整ヒマセヌ。是デハ仕方ガナイト云フノデ、兩方カラ七、
 八人選シテ、支配役場詰ト云フモノヲ作ツテ、兩替店カラ高野
 氏始メ四、五名出マス、御用所ノ方カラハ私ト誰カモウ一人出タ
 カト思ヒマス。其ノ七、八名ガ総テ人員ノ増減、黜陟ノ下相談ラ
 シテ、重役ニ其事ヲ謀ツテ決ヲ採ルコトニシタ、ソレカラ漸ク事
 務ノ進ミガ好クナリマシタ。ソコデ兩換店ト御用所ヲ一緒ニシ
 テ、新ニ為換座三井組ト云フモノニシマシタ、御用所ハ諸官省ノ
 御用、兩換店ハ府県ノ御用、ソレヲ一団ニシテヤツテシマツタ、
 人員百五、六十人デゴザイマシタ。
 ソレカラ三谷三九郎ノ事が出テ来マス。三谷モ中々盛デゴザイマ
 シタ、當時三九郎ガ主人デ、同苗ニ斧三郎ト云フ者ガゴザイマシ
 テ、是ガ主ニ外交ヲヤツタノデス。

(岡)何所ニ店ガアリマシタ。

店ハ兩替町、今日本銀行ノアル所。幕府治世ノ時分カラ、江戸富
 豪ノ第一ト言ハレ、此時分ニハ三谷ヲ第一等ニ言ウテ居リマシ
 タ。元ト長州毛利家ノ御用ヲ達シテ居ツタモノダカラ、其緣故ニ
 依リ、陸軍省一般ニ皆三谷ガヤツテ居マシタ。

(岡)二六新聞デ三谷ノ事ヲ喧シク言ツテ三井攻撃ラシタ、アノ
 事實ノ真相ハ……。

私共略々知ツテ居リマス。

(岡)アノ新聞デ言ツタ事ハ、全部本當デスカ。

アノ時分私モ非常ニ都合ノ悪い時分デゴザイマシテ、碌々新聞モ
 見マセヌデゴザイマシタガ、余程嘘ガゴザイマス。東京商社ト三
 谷家ノ兩方ノ便ヲ図ツテ、三十六万円三井ガ貸シタノデゴザイマ
 ス、太政官十円札ヲ三十六万円積ミマシタノハ私共始メテ見タ。
 幕府以來、箇人ノ貸借デ、三十六万円ト云フノハ、アノ時ガ初テ
 ダト云フ事デゴザイマス。其時ニ戻リ証ガアツタノデゴザイマ
 ス、其戻リ証ヲ後ニ、斧三郎ト齋藤銀藏トガ非常ニ親密デ、此ニ
 ハ私ハ秘密ニ属スルカラ書イテ置キマセヌガ、其戻リ証ヲ此方ヘ
 取ツテシマツタ、銀藏ガ——ソレデ三井家ノ為ニハ大變都合ガ好
 カツタノデゴザイマスガ、自然サウ云フ事柄ガアツタ為ニ、ア、
 言フ事が起ツタノデス。此ニハ唯、三井家ノ為メ密ニ大ニ尻スコ
 トアリトダケ書イテ置キマシタ、ソレガ今ノ事デゴザイマス。之
 ヲ知ツテ居ル者ハ沢山ハゴザイマセヌ。私モ見ハ致シマセヌガ、
 話ハヨク聞キマシタ。

(岡)今三谷ノ後ハドウナツテ居リマセウ。

頓ト聞キマセヌ、深川ニ暫ク家ヲ借リテ、主人三九郎ノ非常ニ
 落魄シタト云フ事ヲ聞キマシタ。

ソレカラ三井ト小野ノ親睦会ヲヤツタ事ガアリマス、ト云フノハ
 小野モ是カラナカノ盛ニナツテ来マシタ、ドウ云フモノカ其當
 時ハ、井上サンガ小野ノ方ヘ非常ニ力ヲ入レテ、却テ此方ヲ疎外
 シタ、其ノ為ニ小野ガ非常ナ勢力ニナツテ、又諸県ノ御用モ小野

ノ方ガ多ウゴザイマシタ、此方ノ倍以上アリマシタ。ソレデ頗ル金銭ヲ濫費シテ、兎角三井ヲ庄スルヤウナ気味ガアツタ。是デハ仕方ガナイカラト云フノデ、齋藤純造ト小野善右エ門ト云フ人ト相談シテ、両家互ニ親密ニシナイト大変ナ不利益ダカラ、何カシマセウト云フノデ、三井家ノ定紋ノ羽織ヲ二十枚、小野ノ羽織ヲ十枚、両方ノ手代ニ交換ヲシマシタ、サウシテ其羽織ヲ着テ、親睦会ヲシヤウト云フノデ、今ハゴザイマセスガ、浜町ノ千松亭デ一夕盛会ヲヤリマシタ。

(岡)ソレハ其時分ノ大キイ料理屋デシタカ。

余リ大キクハゴザイマセスデシタ、三井家デハ齋藤純造、三野村父子、永田、松本、高野、向井、齋藤銀蔵、長田、私……

(岡)松本ト云フノハ、松本勤七デスカ。

常造、第一銀行ノ支配人ヲシマシタ、唯今本郷ニ居リマス。

(岡)松本勤十郎ト云フ人ガ居リマシタネ。

アレハ旧ト呉服店ニ居リマシタ。

(岡)其時分ハモウ居リマセスカツタ。

アノ当時ハマダ呉服店デシタラウ、ナカノ、^(岡)榎巧ナ男デゴザイマシタ。小野カラ参ツタノハ小野善右エ門、行田庄兵衛、田畑健三、奥村信造、江林嘉平、山形平八、清水清八、其他数名、其中ニ生キテル者ハ二、三人ゴザイマセウ。ソレデ爾今互ニ何事モ親密ニシヤウト云フノデ、殊更ニ齋藤父子ガ行岡ト親密ニシ、向井・松本ハ江林、高野・長田ハ山形ト親密ニシ、誰ハ誰トスルト云フヤウニ、各部署ヲ定メマシテ、私ハ奥村信造ト云フノト極懇

意ニシテ、互ニ始終存問ヲスルコトニシマシタ。ソコデ全国ノ全權ハ殆ド此両組ノ掌中ニ握ツタト云フノデ、是ハ誇ツタモノデゴザイマス。ソレカラ間モナク小野組転籍ノ紛擾ガ起リマシタ。小野組ハ原籍ガ京都デゴザイマスガ、ソレヲ東京ニ移スコトノ考ヲ起シタ。三井家モ殆ド其内議ガアツタ、主人方ノ籍ヲ皆東京ヘ移サナケレバナラス……

(岡)サウデシタ、ソレカラ大元方ヲ東京ヘ移サナケレバナラスト云フ……

ソレヲ京都府知事ノ檳村ヘ願ヲ出スト、民情ニ関スルカラト云フノデ非常ニ之ヲ拒ム。小野ハサウ云フ筈ハナイト云ツテ、内部ニ井上伯ヤ何カ御出デニナルモノダカラ、ソレヲ当路ヘ訴ヘテ、トウノ官吏ハ挙ケテ来マシタ、ナカノ、大キナ紛擾デゴザイマシタ。ドウ落着シタカ、漸ク其事ガ済ミマシテ府知事以下一同帰リマシタガ、ソレカラ以来、京都府ハ一層三井家ヲ保護シテ呉レルヤウニナリマシタ。

ソレカラ静岡県ノ紳商ニ野呂政太郎ニ勝間田清三郎ト云フ者ガアリマシテ、渋沢サンノ紹介デ、此二人ニ、三井家ガヤツテ居リマシタ静岡県ノ出納取扱ヲ委託シマシテ、三井組ノ支店ト云フコトニナリマシタ。其ノ勝間田ニ附属シテ平尾賛平ガ東京ニ参リ、初メ東京商社ニ入ツテ、商社カラ又勝間田ノ世話デ三井家ヘ入ツタ。当時俸給十五円カニ定メテ此方ヘ入りマシタ。平尾ノ曰フニハ、連モ十五円ノ俸給デハ一家支ヘルコトガ出来ヌカラ、国ヘ帰

ルト屢々言ヒマシタケレトモ、マアモウ少シ耐忍シテ居レ、其中ニドウカ方法ガ付クダラウカラト云ツテ留メマシテ、私ノ下役ニシテ府県係ヲ一緒ニヤツテ居リマシタ、是ガ平尾ガ三井家へ入ツタ初デゴザイマス。

次デ駿河町ノ為換座ノ本店ガ落成シマシタ、其総費用ガ五万七、八千円ト思ヒマシタ、斯ウ言フ帳簿ハ御調ベニナツテアリマセヌカ。

(岡)アリマス。

兜町ノ前ノ建築ガ六万円程デ出来タノデス。此時ニ表ノ看板ヲ佐瀬得所ガ書キマシタ、一枚ハ為換座三井組、一枚ハ三井バンクト書キマシタ、「バンク」ハ後ニ改メタカト思ヒマス。

(岡)其看板ナド残ツテ居リマセヌカ。

好イ字ニ書キマシタガ、何処カニ有ルデゴザイマセウ。私ハ此時大雅仙一枚ニ一字書イテ貰ヒマシタ、深川ノ別荘ニ掛ケテ置キマシタカラ三野村ニアルカ何処カニゴザイマセウ、アレハ三井ノ為ニ書イタ。「是レ魁ノ魁ナルモノナリ」ト言フコトガゴザイマセウ、ナニカ規則ノ中カ何カニアリハセヌカト思フ、ソレヲ私ハ見マシテ、得所ガ何ヲ書キマセウト云フカラ、魁ト云フ字ヲ一字書イテ下サイト云ツテ書カセマシテ、ソレヲ掛物ニシテ下屋敷ノ床ノ間ニ始終掛ケテ置キマシタ。此時三野村氏ガ笑ツテ私ニ言フタコトガアル、駿河町ノ家ハヒトリデニ不図出来タノデアル、空中樓閣デ出来タノダト云ツテ笑ヒマシタガ、ソレハ前ノ兜町ノ建築ヲ十二万八千円デ第一銀行ニ売リマシタ、五万八千兩許リデ出来タモノヲ、十二万八千円ニ売ツテ、其残リデ駿河町ノ建築ヲ総支

弁シテ、マダ幾于カ残ツタ位デアリマスカラ、駿河町ノ建築ハ只デ出来タヤウナモノデス。

借ソレ迄ハ皆旧式ノ帳簿デ、今御話ニナラヌヤウナ帳簿デゴザイマシタ。ソレデ私ガ帳合ヲ担当シタモノデスカラ。毎日日表ヲ拵ヘテ、表デ整理シテヤルト直ク金銭ノ在高カラ何カラ分ルカラ、ソレヲ作ラウト云ツタ所ガ重役中ニハ、ソノ人物ヲ拵ヘテハ却テ紛ハシクテ可ケヌカラ止シテ呉レト云フ説ガアツタ、ケレドモ強テ私ガ日表ヲ拵ヘマシタ、元ノ漢字ノ数字デゴザイマス。デ、表ヲ作ツテ三野村ニ見セマシタ所ガ、三野村ハ是ハ宜イ、明日カラ一日モ欠サズニヤレト云フコトデ、尔来絶エズ作りマシタ、是ガ三井組ノ日表ノ初デゴザイマス。其後間モナク大蔵省デ「シヤンド」ト云フ人ヲ聘シテ、「シヤンド」ニ簿記ノ事ヲ練習サセマシタ、今ノ第一銀行ノ佐々木勇之助氏ナド、慥カ此「シヤンド」カラ直ニ教授ヲ受ケタカト思ヒマス。

(岡)三井デハドンナ人ガ教授ヲ受ケマシタカ。

一人モゴザイマセヌ、受ケレバ私共ガヤルノデゴザイマスケレドモ、ナカノ忙シクテ其様ナ暇ガゴザイマセヌカラ……。ソレカラ又英語ヲヤラネバйкаスト云フコトヲ、私が卒先シテ言ヒ出シタ所ガ、デハ誰カ慶応義塾カラ招バウト云フコトニナツテ、近藤軌四郎ノ同郷デ熊谷辰太郎、今第一銀行ノ大阪ノ取締デゴザイマセウ、アノ人ヲ招ビマシテ、一ヶ月十五円ノ手当ト定メテ、兩替店ノ二階デ毎晩夜学ヲ始メマシタ。老幼ヲ論セズ、英学ニ志ノアル者ハ皆來テ教授ヲ受ケト言フ、私共ニ晩三晩三晩ヤツタガ、忙シ

クテ、纒ヤク一、二語寛エタ位デ止メテシマヒマシタ。其中ニ先生ヲ連レテ遊ビニ行クノデスナ、随分盛デゴザイマシタ、先生モヤハリ英語ヲ教エルヨリ其方ガドウヤラ面白イト見エテ、時々欠席ガ出来テシマツタ。是ハイケナイ、生徒モ先生モ皆居ナクナツテシマウ、止メタラ宜カラウト云フノデ止メテシマツタ。

(岡)酒ヲ飲ミニ行クノデスカ。

ヤハリ吉原ヘ行ク。ソレカラ中止シマシテ、熊谷氏ハ其儘店員ニナツテシマツタ。受付カ何カノ追廻シニ使ツテ居ツタガ其中ニ此方カラ第一銀行ニ出勤スルコトニナツテ、尔来引続イテ第一銀行ノ方デ後ニ取締ニナツテ、今重役デゴザイマス。

ソレカラ三野村氏ガ辞表ヲ出シタコトガゴザイマス。其辞表ノ草稿ガ図ラズ私ノ方ニアリマシタ。ナカ／＼簡条ガ長イノデゴザイマス。第一銀行ノ助勤ト言フ名目ニナツテ、第一ヘハ出ルシ、三井家ト両方ハ迫モイケナイカラ、分担ヲシテ私ノ尺スベキコトハ尽スケレドモ、兎モ角三井家ノ重役ノ名義ハ除イテ貰ヒタイト云フコトデアリマシタ。種々協議シタ結果、主人方モ斎藤純造モ、サウシテハ甚ダ都合ガ悪イカラ、モウ暫ク三井家ノ事ニ力ヲ入レル方ガ宜カラウト云フノデ、其事ヲ論シマシタ為ニ、遂ニソレハ撤回シマシタ。此事ハ誰モ知ラヌデゴザイマセウ。

(岡)其辞表ノ文ハ長イモノデスカ。

十何簡条カゴザイマス。

(岡)ソレハ無論聞届ケラレナカツタノデスナ。

左様デス。ソレカラ店ノ事務ノ方デ、大蔵省ヘ金ヲ納メマスノ

ハ、総テ三井カラ納メルト、第一銀行ガ受取ルコトガ多イノデス、三井家カラハ高野栄次郎、第一銀行カラハ向井小右衛門ガ支配人デ来テ受取ルノデゴザイマス。此授受ノ事ニ就テ、往々此方ガ金ノ都合ガ悪イモノデスカラ、御用箱ヲ持ツテ行ツテハ、有ルモノニシテ、二日モ三日モ改メヲ延バスト云フヤウナ事情ガ常ニアツタ。向井ト高野ハ同郷デ、幼少ノ時共ニ伊勢カラ来テ三井家ニ入ツタノデ、始終親密ノ交際ガアリ、且三井家トハ旧主従ノ關係ガアルモノデスカラ、向井モ余程大蔵省ニ対シ、又第一銀行ニ対シテ、困ル事情モ度々アツタヤウデゴザイマシタガ、能ク忍ンデ三井家ノ為ニ尽シテ呉レタ、ソレニ就テハ私共大キニ敬服シテ居ルコトガアルノデス。

ソレカラ佐賀県ノ乱ガゴザイマシタ、大蔵省ノ下役ガ「佐賀県土族征韓論ヲ唱ヘ、寺ニ抛リ勢ヒ益々猖獗ナリ、昨夜小野組ヘ打入り、小野組手代残ラズ逃去リタリ」と云フ電報ヲ示シテ、三井組モ関西地方ノ支店ヲ能ク警戒セニヤイケマイト注意ヲシテ呉レタコトガアル。其電報ヲ私ハ記憶シテ居ツタモノデスカラ、チヨット茲ニ附加ヘテ置キマス。

ソレカラ報効会ト云フコトガゴザイマシタ。店員支配人以上或ハ以下タリトモ、毎月十六日午后ヨリ集会シテ、出席ノ順ニテ座位ヲ定メ、社店ノ為メ必ス一説以上ヲ提出シテ可否ヲ討論スル、斯ウ云フ事ヲ定メマシタ。

(岡)ソレハ誰ノ発意デ出来タモノデス。

大元方ノ相談デゴザイマシタ、三野村・斎藤等ノ協議デ、私共ノ

説デハゴザイマセヌ。規則書ハ私共ニゴザイマス。恰度七月十六日ニ深川ノ別荘デ此会ヲ開キマシテ、殆ト会員ガ出席シテ、既ニ席ヲ設ケテ会議ニ掛ラウト云フ時ニ、北岡文兵衛ト川村源兵衛トノ間ニ、新潟県ノ松平参事ノ宿泊ノ事デ争ガ起ツテ、何方ニモ理ガアルノデゴザイマス、非常ナ激論ニナツテ、到底会議ガ出来マセヌ。ソレデ私ガ北岡トハ親密デゴザイマシタシ、川村モ御用所

以来ノ朋友デゴザイマシタカラ、漸ク二人ヲ仲裁シテ、和解ヲスルコトニシマシテ、會議ハ其ノ為メ遂ニ中止ニナリマシタ。此時ニチヨツト私ノ洒落ガアルノデス、「文兵衛ガ源兵衛対ノ争は今日こそ論ノ十六日なり」此洒落ヲヤツテお仕舞。川村ハ元ト御用所ノ小使デゴザイマシタ。小使デ居テ非常ニ勉強シタモノダカラ、大三野ガ登庸シテ遂ニ支配人ニ拔擢シタ、然ルニ北岡モナカク、倨傲ナ人デ、席ハ川村源兵衛ト同席ナノデスガ、ヤハリ昔ノ小使ノ積リデ源兵衛々々ト呼ンデ居ル。ダカラ時々私注意ヲシテ「昔ノ源兵衛チヤナイ、兎ニ角同僚デ今ハ支配人ノ位置ニ居ル者ダカラ、源兵衛々々ト呼付デハ困ルヂアナイカ」ト云フト「ウムサウダ〜」ト云ツテ居ツテ、又直ニ「オイ〜源兵衛」ナンテヤル男デゴザイマシタ。

(岡)川村源兵衛ハドウナツテシマヒマシタ。

源兵衛ノ後ハチヨツト分リマセヌ。

(岡)北岡ハ相変ラズ浅草……

アレハ盛デゴザイマス。

(岡)近頃デハ余程豪イモンデセウ。

財産ガ出来タデゴザイマセウ、アノ先代北岡ガ島方ノ担当者デゴザイマス、ソレヲ斎藤純造ガ世話ヲシテ、アレヲ養子ニ入レタ。アレハ越後ノ高田ノ人デゴザイマス、松方サンノ処ヘ書生ニ行ツテ居リマシテ、松方サンノ何カデ三井家ノ方ヘ入ルヤウニナリマシタ。

(岡)北岡サンノ処ニ三井家関係ノ物ハアリマセヌカ。ゴザイマスマイ。彼処ハ先代ガ没シテ、アト女ノ児ヲ一人遣シテ、ソレト母ト二人デ非常ニ困ツテ、西河岸ノ小イ家ニ入ツテ居リマシタ。其当時ノ事情ハ能ク知ツテ居リマスガ、サウ云フ訳デ何モゴザイマスマイ。

(岡)ヨク色々ナ物ニ、北岡サンノ名前ハ出ルノデス。

三野村ト喧嘩ヲシマシテ、三野村ヲ斬ツテシマウト云ツテ……

(岡)利左衛門デスカ。

エ々。

(岡)何デ争ツタノデス。

ドウモ其意ガ私ニハ分リマセヌ、斬ツテシマウト云フ。ソレカラ利助サンガ、「発狂デモサレルト困ルカラ、私ガ行ツテ聴カウ」「サウナスツタラ宜ウゴザイマセウ、貴所一人デ行クヨリ、誰カ御連レナサイ」ト申シテ、高野栄次郎ガ一緒ニ附イテ、北岡ノ宅ヘ行ツテ何かイロ〜話ヲシタ。サウシタラ又刀ヲ出シテ、「此刀デ斬ツテシマウ」ナド、云ツテ、高野ガ大キニ困ツタコトガアルノデスヨ。

(岡)短気ナ男ト見エマスネ。

齊藤純造が世話ヲシタ事情モゴザイマスシ、私ハ至テ懇意ニシマシタ。ソレカラ明治六年デゴザイマセウカ、台湾出征ノ折ニ、陸軍省カラ三井組ニ随行ヲ命ゼラレタ、會計ニ就テ——。所ガ皆其時ノ説ニ台湾トイフ処ハ誤レバ喰ハレテシマウ、必ズ蕃族ノ餌ニナルノダカラト云ツテ、誰モ行ク者ガ無イノデス。重役ガイロノ人選シタケレドモ、誰モ御免蒙ルト云フ方ガ多クテ仕様ガナイ、ソコデ長田豊次郎ガ宜カラウ、彼ナラバ酒ハ飲ムシ勇氣ハアルシ、少シモ細カイ事ニ頓着シナイカラ、長田ヲ人選シタラ宜カラウト云フノデ、一同長田ガ宜カラウト云フコトニ決シタ。長田ニ其事ヲ言フト、「宜シイ、諸君ガ嫌フ処ナラ僕ガ行カウ、行カウガ併シ運拙クシテ誤レバ蕃族ノ餌ニナツテシマウ、ソレモ境遇ガ面白イカラ宜カラウ、併ナガラ唯サウナツタ丈デハ面白クナイカラ、其報知ヲ得タナラバ、必ス諸君ガ来テ私ノ首ノ在ル所ヲ尋ネテ、復讐ヲシテ私ノ靈ニ酬ヒテ貰ヒタイ、サウシナケレバ私ハ死ンデモ瞑目ガ出来ナイ」「ナカ々々」ト云フノデ、遂ニ長田ヲ遣ルコトニ決メタ。平定ノ後、三井組ヘハ陸軍省カラ何カ賜ハリマシタ、写真カ何カデゴザイマシタ。長田ハ特ニ兩陛下ノ御写真ヲ頂戴シマシタ。是ハ將校ニ準ジタ扱ダト云フコトデ、今長田ノ宅ニ保存シテゴザイマスガ、其時分兩陛下ノ直ニ撮ツタ御写真デ、ナカノ貴イモノデゴザイマス。此時ノ随行ニ、日報社ノ岸田吟香ト云フ人ガ居リマシタ、ソレカラ三井組ノ長田、大倉組ガ喜八郎、此三人デ紀念ノ為ニ写真ヲ撮ツタ。其写真モゴザイマス。岸田ト長田ハ故人ニナリマシタガ、大倉ハ残ツテ居リマス。

(岡)其写真ハ何処ニゴザイマス。

長田ノ宅ニゴザイマス。ソレカラ葭町ニ林家ト云フノゴザイマシタ。林留右衛門、是ハ三井家隸屬中最モ古イノデ、八代位ニナリマセウ、私宅ヨリモ古イ。彼処ニ茨城県ノ出納御用ヲ三井家デ委託シタ。サウスルト金ノ潤沢ナ所カラ、手代ガ方針ヲ誤ツテ、金額ハ覚エマセスガ多額ノ損失ヲシマシタ。ソレニ就テ林家ハ、旧主従ノ關係ガゴザイマスノデ、余儀ナク主人留右衛門ガ、全財産ヲ挙ゲテ三井家ヘ入レテシマヒマシタ。此林家ハ古イモノデゴザイマス。曾テ榎本サンノ發議デ江戸三百年祭ト云フモノゴザイマシタ、其時林ノ土蔵ガ、三百年祭ノ撰ニ入ツテ居ルト云フコトヲ聞キマシタ。其土蔵ヲ林ガ売ツタノデハナイカト思ヒマスガ、葭屋ノ庫ガ三百年ノ中ニ入ル筈ダト言ツテ居ツタト思ヒマス。

(岡)今ハ無イデセウナ。

モウ御座イマスマイ。ソレカラ陸軍少將デ種田ト云フ人ガ居リマシタ、是ハ誠ニ三井家ニ厚クシテ下サツタ人デゴザイマス、熊本ノ鎮台司令長官ニナツテ赴任ノ二、三日前一、三井家デ送別ヲシマシタ。

(岡)ドウ云フ關係デス。

矢張り三井家デ陸軍一般ノ御用ヲシタモノデスカラ——。接待ヲ齊藤銀藏ト長田豊次郎ガシマシタ、檜物町ノ隅屋ト云フ料理屋デ、お相伴デ其席ニ来タノハ陸軍ノ大中佐始メニ、二、三十人來マシタ。所ガアマリ献酬ガ盛ダツタノデ、遂ニ少將モ堪ヘナクナツテ吐シマシタ。婢ガ雑巾デ拭ヒ去ラウトシタ所ガ、少佐位ノ人

デシタ、或ハ大尉タツタカモ知レマセヌ「止セウ」ト云ツテ、箸ヲ付ケテソレヲ食ベタ、一人ガ食ベルト其席ニ居タ大勢ガ「皆ナヤレ」ト云ツテ忽チ十四、五人集ツテ来テ、少将ノ出シタ物ヲ綺麗ニサラツテ食ベテシマツタ。長田ハソレヲ見テ帰ツテ来テ、人望モ偉イモンダガドウモ陸軍ノヤツハ盛シナモノダト云ツテ居リマシタ。ソレカラ少将ノ妾ガゴザイマシタ、日本橋ノ芸妓デ、名ヲ忘レマシタガ、ソレヲ矢張り熊本ニ連レテ行カレタ。サウスルト例ノ神風党ノ乱デ、少将ガヤラレタト云フコトヲ聞イテ、長田ガアノ女モヤラレヘセスカト、取敢ヘズ妓ノ宅ニ見舞ニ行キマシタラ、老母ガ昨夜電信ガ来タト云ツテ、例ノ「ダンナワイケナイワタシワブジヨ」ト云フ電報ヲ示シテ、娘ハ助カツタト云ツテ喜ンデ居ツタ。此後ヘ行ツタノガ谷干城將軍デゴザイマス。

(岡)ヤハリ同じ部屋デヤラレ掛カツタノデハアリマセスカ。

何処カヘ逃ゲタノデゴザイマセウ。当時常盤橋内ニ府県ノ出張所ト云フモノガゴザイマシタ。橋ヲ渡ルト直グノ処デ、昔ノ酒井左衛門尉カノ屋敷ノ跡ヘ長屋ガゴザイマシタ、其処ヘ各々仕切ヲシテ、皆何県々々ト云フ札ヲ出シテ、県ノ属官ガ二、三人位詰メテ居ツタ。サウシテ自分ノ本県カラ信書ガ来ル、ソレヲ内務省ヘ取次ギ、内務省ノ達ヤ何カハ其処カラ本県ヘ送ル、詰リ本省トノ信書ノ往復ヲ掌ツテ居ツタ。私共府県係デ、多ク其処ヘ出テ総テノ事ヲ扱ヒマシタ。

(岡)其処デスカ、例ノ貴所ガ儲ケタト云フノハ……。

或日私ガ参リマシタラバ、新潟県出張所ノ小倉行光ト云フ者ガ

「松島、私ハ滞在ガ長イノデ大分費用ヲ使ツテ困ツテ居ルガ、金ヲ少シ借りタイ」「ドノ位貴所御入用ナンデス、少々位ナラ私取計ヒマスカラ」ト云ツタラ「身分トシテハ少シ多イガ、三百円バカリダ」、属官ガ其当時七十位ノ月給デゴザイマス、「三百円デハ少シ多イ、御即答ハ出来マセヌガ、重役ト協議シテ見マセウ」ト云ツテ帰ツテ来テ、森藤五郎、麻田佐治平ノ二人ニ相談シタ、「今日斯ウ云フ事ヲ言ハレタ、其代リお前ガ承諾シテ呉レバ、ソレニ酬ユルダケノ事ハアルカラ、ト云フコトダ」重役兩人ニ話シタ所ガ「何事カ知ラヌケレドモ、サウ云フ事ハ断ハツテ呉レ、属官デ三百円ト云フノハ金額モ多イシ、サウ云フ事ガ度々来ルト際限ガ無イカラ、君ノ力デ断ハレルナラ断ハツテ呉レ」ト云フ。ソレカラ私考ヘルニ、折角先方ガ言フモノヲ唯断ハルノモ、若シ此方カラ願ウコトガアツタ時ニ大変都合ガ悪イ、若シ間違ツタラ自分ガ一年許リノ給金ヲ捨テレバ宜イ——當時トハ違ツテ其時分ハ少シ都合ノ好イ時分デシタカラ、重役ニ相談ナク金ヲ持ツテ行ツテ貸サウト云フ考デ、自分ノ預金ガアリマシタカラソレヲ出シテ、平尾ガ同役ダカラ「斯ウ〜云フ次第デ今日新潟県ノ小倉ニ金ヲ三百円貸スノダ、君立会証人デ一緒ニ来テ呉レ」、ソレカラ品川町ニ万林ト云フ料理屋ガアツタ、其処ヘ行ツテ小倉ヲ呼ビマシテ、「私ハ貴所ノ御依頼ノ事ヲ、今日用便スルヤウニ相談シマシタカラ」ト直グ金ヲ出シタノデス。サウシタラ大層喜ンデ「誠ニ忝イ、就テハ君ニ言フ事ト云フノハ他デハナイ、大蔵省ノ第百八号ト云フ布達ガ出テ居ル、此布達ニ依レバ、為替方ハ諸県ノ納払金額ノ百

分ノ三ノ手数料ヲ当然受領スベキコトニナツテ居ル、ケレトモ是ハ政府ガ杜撰デ出シタニ違ヒナイ、ト云フモノハ百分ノ三ノ金額ハナカ／＼多額ニ上ル、ソレダケノ手数料ヲ出シテ宜イトハ決シテ認メラレナイノデ、事ニヨルト私ハ之ヲ変更スルダラウト思フガ、既ニ布達ヲ出シテカラ時日モ経ツテ居ルカラ、早く三井組カラ請求シタナラバ、必ス是ハ取レヤウト思フ、此事ヲお前ニ折角心配シテ呉レタ報酬トシテ話シテ聞カセル、疾カラ考ヘテ居ツタケレドモ、或ハ三井組カラ申出ハセヌカト思ツテ居ツタガ、今日迄君達ガ知ラヌト云フ訳ナラバ、此事ヲ一ツ調べテ見タラ宜カラウ」ト云フ、ソレカラ帰ツテ直ニ私ハ布達ノ綴ヲ見タノデス、成程少シモ違ヒナイ、其通りアル。ソレカラ又直ニ翌日行キマシテ、「昨日御話ノコトハ、如何ニモサウ云フ布達ガアルガ、ドウ云フ事ニシタラ宜カラウカ」ト聴クト「ソレデハ先以テ為替座カラ新潟県へ願書ヲ出シナサイ、私ガソレヲウマク取斗フカラ」ト云フノデ、願書ヲ書イテ持ツテ参リマシタ。サウスルト直ニソレヲ本省へ伺ヲ出シテ呉レタ、本省カラ伺ノ通、但シ第二ノ予備金ノ内ヲ以テ支払可申事ト云フ指令ガ来タカラ、ソレデモウ確乎トシテシマツタ。ソレカラ私ハ婦ツテ三野村ニ「トキニ斯ウ云フ都合デアリマス、新潟県ノ属官ノ小倉ガ斯ウノ言ツテ、私ハ金ヲ三百円持ツテ行ツタ、重役へ相談シタケレドモドウモ異議ガアルヤウデシタカラ、私ガ之ヲ取斗ラツタカラ」ト申シタ所ガ、「ソレハ能ク取計ラツタ、重役ハ平素皆斯ウ云フ物ヲ見テ居ナガラ、心付カヌト云フノハ余リ不都合チャナイカ、殊ニ松島カラ相談ヲ受ケル迄知

ラズニ居ル抔ト云フコトハナイ。是ハ後來一同ノ奨励ノ為ニモナルカラ、規則ニ依ツテ受領ノ金額ノ二割ヲ府県掛ニ遺ルコトニシヤウ」ト言ツテ呉レタ。森モ麻田モ大キニ都合ノ悪イコトニナリマシタ、ケレドモ三野村ガサウ言フモノダカラ、私共ハ誠ニ有難イ。實ニ是ハ一同ノ奨励ニナルコトダカラ、斯ウ云フ事ニ付テハ殊更ニハツキリトシテヤラナケレバイカヌ、多人數ヲ御スルニハ最モ注意シテ、斯ウ云フ事ニ着目シタ者ニハ殊更ニ多分ノ賞与ヲ遣ラナケレバナラヌト云フコトデゴザイマシタ。ソレカラ私ハ概算シタ所ガ、何デモ受領スル金額ガ十二、三万以上十四、五万、二割トスルト三万円近ク貰ヘルノデス、是ハ大キナ仕事ガ出来タト思ツテ心窃ニ喜ンダ。ソレカラ平尾ニ「君ハ今困ツテ居ルノダカラ、少々位ノ金ハ此中デ弁ジテ宜イガ、二人デ是ダケ貰フト云フコトハ好過ギルカラ、何カ方法ヲ設ケテ、他ニ對シテモ誇レル事業ヲ起スト云フモノカ、何カ一ツシヤウト思フガ、兎ニ角受領ノ下ル迄ハ待ツコトニシヤウ」ト言ツテ置キマシタ。ソレカラ間モナク各支店ノ交替ノ議ガ起リマシテ、三野村ガ私ヲ呼び「今度名古屋ト新潟ト函館ノ三ヶ所ヲ交替サセヤウト思フ、ト云フモノハ是迄皆老人バカリ遣ツテアツテ、ドウモ事務ガ敏活ニ行カナイ、お前ハ御用所へ出タ以来簿記ヲヤツテ、チヨツトモ外ノ弁當ヲ食ツテ見タコトガナイ、今度ハ食ツテ見タラドウダ」ト云フ話、「ソレハ誠ニ望ム所ダ」、「三箇所ノ中何処ガ宜イ」ト云フカラ「一番遠イ函館ヲ願ヒマセウ、函館へ行ツテ一奮発シテ見タイト思ヒマス」ソレハ至極宜シイ、デハ函館へ遺ルコトニシヤウ」

ト云フノ函館出張ガ決リマシタ。「就テハ老人ヲ此方ヘ帰スカ
ラ、誰カ若イ者ヲ連レテ行キタイ」「ソレデハお前人選シロ」ト
云フ、ソレカラ宮下參次郎ト平尾ノ弟ノ房次郎——房次郎ハ当時
十七歳位、チヨット字ヲ書キマス、宮下ハ金銀ノ鑑定ガ能ク出来
ル、此二人ヲ連レテ函館ヘ行クコトニナリマシタ。恰度明治七年
ノ八月十三日、横浜カラ船ニ乗ツタ、平尾ガ船マデ送ツテ呉レマ
シタカラ尚府県係ノ手数料分与ガ取レルコトニナツタラバ、大ニ
利用シヤウト思フ事ガアルカラ、君等大ニ注意シテ居ツテ呉レト
平尾ニ談ジテ、ソレカラ船ニ乗リマス、船ノ中ニ六十五、六ニ
ナル白髯ノ老人ガ居リマシテ、「何処ヘ行ク、私モ函館ヘ行クノ
ダ」ト云フ。能ク其人ノ履歴ヲ聴キマス、
「私ハ旧幕ノ士デ、
中川嘉兵衛ト云フ者デアル、五稜廓デ製氷ヲヤツテ、ソレヲ各地
ニ出スコトヲ業トシテ居ル、北海道ノ事ハ最モ古クカラ事情ヲ知
ツテ居ル」ト云フカラ、是ハ好イ人ヲ得タト思ヒマシテ、船中デ
種々談話ノ交換ヲシテ、私ノ年ヲ聞クカラ「私ハ二十二歳、他ノ
二人モ皆私ヨリ年ガ弱イ、一体此航海モ初テナリ、世間見ズト云
フ方ダ、尚又北海道ノ事ニ付テ、今後君ノ教導ヲ請フカラ、何分
頼ム」ト申シタ所ガ、嘉兵衛ノ言フニハ「三人ノ年ヲ合セテ私一
人ダケダ、三井家ハエライ事ニナツタ、此書生ヲ函館ヘ送ルトハ
盛シナモノダ」ト言フタコトガゴザイマシタ。ソレカラ後函館ヘ
參ツテ、嘉兵衛ト屢々往来シテ、為ニ種々北海道ノ事情ヲ知ルコ
トガ出来マシタ。此嘉兵衛ノ意見ヲ聴キマシテカラ、私ハ函館デ
奮発シタノデス。

函館ヘ着スルナリ、事務引継ヲ致シマセヌデ、直グ札幌ヲ巡廻シ
マシタ。札幌ヘ行クノニ、往ハ難道ヲ行ク考ヲ起シテ、西地ノ方
ヲ參リマシタ。是ハヒドウゴザイマス、森ヘ一泊シマシテ、ソレ
カラ長万部、黒松内ノ山道ヲ四里越シテ、磯谷カラ六里ノ雷電峠
ヲ越シテ岩内ヘ行ツテ……

(岡)岩内ニ泊リマシタカ。

一泊致シマシタ。ソレカラ余市、小樽、錢函等ヲ通ツテ札幌ヘ行
キマシタ、四泊六日懸リマシタ。其当時札幌ガ戸数二千ト云ツタ
ガ、人ノ住ツテ居ル家ハヨウヤク三、四百シカゴザイマセス。創
成川ト云フ川ニ鮭ガズン／＼泳イデ居リマシタ、到ル処熊ノ巢ガ
アツテ危険極マル。札幌ノ店ニ菊屋儀助ト云フ老人ガ居ツテ、ヤ
ハリ東京カラ行ツタ者デス、元ト毛利家デ三百石程取ツタ人デ、
長州ノ三家老ノ割腹シタ時ニ出会ツタト云フ事デアリマシタ、伊
藤サンノ紹介デ三井ヘ入ツテ、歌ヲ能クヤリマシタ。婦リニ室蘭
ヘ泊リマシテ、菊屋ノ歌ガゴザイマス「朝な夕な君か手入に愛ら
れて開けば花も香る室蘭」、其当時ハ室蘭ハ人家二十戸程、至テ
寂寞タルモノデゴザイマシタ。

(岡)札幌カラ室蘭マデ、其時分何日位掛リマシタ。

札幌ヲ出テ苦小牧、白老、幌別、婦リハ三泊五日デゴザイマシ
タ。マダ幌別ノ原ヘ行キマス、鹿ガ処々ニ居リマシタ、私ノ參
ル四、五年前マデハ、鹿ノ沢山集ル時分ニハ、向フガ見エナイ位
ニ居ツタサウデス、斯ウシテ腰デ打ツト、二頭位ヅ、打ツタト云
フノデスカラ、盛シナモノデゴザイマシタ。札幌カラ婦ツテ直ニ

青森へ参リマシタ、青森ハ此時分ハ僅ニ鎮台ノ營所ノ御用ヲスルノデ、手代ガ二名程行ツテ居リマシタ、少シ許リノ商人ガ替ヲスル位ノ事デ、県庁御用ハ小野組ガ致シテ居リマシタ。

青森カラ帰リマシテカラ、函館支店ノ業務ノ方針ヲ立テタ。ソレ迄ハ函館ハ総テ開拓使ノ納払ダケデ、民業ガ更ニ無イ。毎年本店カラ費用ヲ補ツテ居ルノデ、一文モ利益ガ無イ。ソレデ私ハ、支店トシテ本店カラ費用ヲ貰ツテ居ルノハ不都合ナモノダ、折角出テ来タノダカラ何カ功夫ヲ擧ゲヤウト思ツテ、荷ガ替ヲ始メマシタ、一万円ニ付テ三百円ツ、手数料ヲ取ツテ。――

(岡)ソレ迄ハ荷ガ替ハ全ク無カツタノデスカ。

誰モスル人ガ無イ。金モ無シスルモノダカラ――。私ガ彼処ニ於ケル大キナ荷ガ替ノ初デゴザイマシタ。土地ノ人デ佐野利平ト云フ者ヲ手当ヲヤツテ雇入レテ、其者ニ万事ヤラセマシタ。為替座ガ荷ガ替ヲスル、是ハ便利デ宜イト云フノデ、喜ンデ来テ取組ムノデス、此荷ガ替ノ為ニヨウヤク半期三千円位ノ純益ヲ擧ゲルコトガ出来タ。ソレカラ冬季ニナリマシテ航海ガ杜絶スルト、石炭ガ非常ニ騰貴スルノデ、私ハ石炭ヲ貯蓄シテ、ソレデ利ヲ得マシテ、函館支店ガ始メテ純益ヲ擧ゲルヤウニナツタ。併シ皆、年ノ行カヌ者、バカリデ、店員七、八名アル中、丁年ニ達シタ者ハ私人、アトハ皆丁年以下、開拓使ノ官吏ガ来テ「お前ノ処ハマルデ教員ノ無イ学校ダ」ト云ツテ笑ツタコトガアリマス。又來客ガアリマス、私ガイキナリ受付へ出テ応接スル、私ノ顔ヲ見テ、「モウチツトドウカ御年ヲ取ツタ方ニ御話シタイ」ト云フカラ、

「年ヲ取ツタ人ナラ台所ニ居リマス」、サウスルト台所ニ行ツテ小使ニ用件ヲ談ズル、小使ガ私ノ処ニ其人ヲ連レテ来ル、ソコデ私ガ取捨ヲ決スルモノダカラ、客ガ顔ヲ見テハ笑ツテ行クノデス。大抵サウデゴザイマシタ、私ガ出ルト、ドウカ貴所ヨリモウチツト年ヲ取ツタ方ニ御目ニ懸リタイト云フ。

ソレカラ土地払下ヲ私ガ考ヘタ、此時分ニハ北海道ハ全道到ル処ガ千坪五十錢デゴザイマス、ソコデ私ハ例ノ府県係手数料ノ分与ヲ是ハ投ジテ、一万町歩モ払下ヲ受ケテ、三井家ノ将来ノ事業トシテヤル積リデアツタ。ソレカラ大ニ調査シタデス。先ツアノ金ガ来タナラバ、土地ヲ充分ノ払下ヲシテ、サウシテ自分一己デ貰フザヤナイ、三井家ノ事業トシテ、其中ノ余惠ヲ吾々が受ケル事ニシタナラバ、皆喜ンデ出来ル事ダカラト云フノデ、是ハ窃ニ自分ダケデ其調査ヲヤリマシタ、サウシテ頻リニ金ノ下ルノヲ待ツテ居ツタノデゴザイマス、一日千秋ノ思トハ是デゴザイマセウ。

ソレカラ開拓使ニ臘虎ガ三十枚バカリ貯蓄シテゴザイマシタ。役人ニ談ジテ売ルノカト聞クト「売ツテモ宜イノダガ、露国ノ軍艦ガ来ルト頻ニ買ヒタガルノデ、役所デモ之ヲ取ツテアル」ト云フ、「ナニ露国ヨリ私ニ売ツテ下サイ、私一手デ買ヒマスカラ」ト、一枚三十五円平均デ残ラズソレヲ買ヒマシテ、皆脂ヲ脱イテ、為替座ノ座敷ニ陳列シテ置イタ。皆来テ見テハ驚イタ、為替座ニハ何十枚ノ臘虎ガアルト云フ、非常ニソレヲ以テ誇ツテ居ツタ。

サウスルト露国軍艦ガ三隻入ツテ来マシタ。艦長以上ガ十四、五名上陸シテ、頻リニ市中デ臘虎ヲ索メタガ一枚モ無イ。他ニ金森

ト云フ家ニ二枚アツタ、ソレモ私ハ買ツテシマツタ。所ガ為替座ニアルト云フノデ来マシテネ、「革ガ有ルサウダナ」「有ツテモ売物デナイカラ見セラレナイ」、ケレドモ強テ見セテ呉レト云フカラ「デハ見ルダケナラ御上ノナサイ」ト上ゲテ見セマシタ、中ニ六尺バカリノ頗ル優等ナノガ二枚ゴザイマシタ。「価ヲ論ゼヌカラ是非之ヲ譲ツテ呉レ」ト云フ、「可ケマセヌ」、「何ウスルノダ」ト云フカラ「是ハ東京ノ同僚ニ遣ル約束ニナツテ居ルカラ、モウ可ケマセヌ」、頻ニソレヲ望ミマシタガ、トウ／＼一枚モ遣ラズニ帰シテシマヒマシタ。「三井ハ金ヲ持ツテ居ルカラ仕様ガナイ」ナンテ悪口ヲ言ヒナガラ帰ツテシマツタ。其当時露西亞ノ軍艦ヲ海岸ヘ出テ見マシタガ、威容雄大デ、マルデ函館港ヲ庄シテ居ルノデスナ、アレデヤラレタラ堪ラナイト思ツテ、大ニ寒心ニ堪ヘナカツタ事デゴザイマスガ、然ルニ後年日露ノ關係ガ斯様ナ事ニナツタノハ、実ニ今昔ノ感ニ堪ヘマセヌ。

ソレカラ函館支店ノ業務ガ非常ニ繁劇ニナリマシタ。全道ニアル厩金ヲ皆引上ゲテ之ヲ截断スルコト、其他古金銀ヲ金銀ト交換スルコト、太政官札並ニ証券ヲ新紙幣ト交換スルコト、鋭意之ヲ実行シロト云フノ内命デゴザイマスカラ、本店カラ十二、三名呼ビマシテ盛ニヤリマシタ。ナカ／＼此時ハ忙シウゴザイマシタガ、皆能ク上下一致シテヤリマシタモノデスカラ、少シノ過失モナク済ミマシタ。

ソレカラ札幌ノ開拓使本庁カラ東京ノ支庁ヘ、金銀紙幣取交ゼテ二十七万円護送シタコトガアル、本庁ノ属官ノ津島嘉三郎ト云フ

方ガ附イテ、函館ヘ来テ便船ヲ待ツテ居ル、金ハ私ノ方ヘ一時預リニ預ツタ。私考ヘルニ、ドウモ之ヲ為替ニ取ツテ手数料ヲ貰ハナケレバ、為替座ノ業務ト云フモノハナイ、官デ護送スベキモノデナイト思ヒ、津島氏ニ其事ヲ談ジタケレドモ「札幌大判官ノ命令デ護送シロト云フコトデアルノダカラ、若シ此処デ為替ナドニスレバ、私ハ職分ヲ過ツコトニナルカラ、折角ノ何ダケレドモ可ス」ト云フ。ドウモ私ガ強テ取リタクテ仕方ガナイ。ソレカラ函館支庁ノ會計課長井上ト云フ人ノ処ニ行ツテ、「札幌本庁ノ送金ガアリマスアレヲ私ノ方ニ為替ニ取リタイト思ツテ、属官ニ話シタケレドモ可スト云フコトデアルガ、ア、云フ物ヲ為替ニシナケレバ為替座ノ職務ト云フモノハ無イ訳ニナル、官デハアレヲ船ニ積ンデ、運賃ヲ払ヒ保険料ヲ払ヒスルト大變ナ費用ガ掛カル、私ノ方ハ為替ノ手数料ダケデ済ム、而シテ官デ其實ガ無イ、一挙兩得ダカラサウナスツタラ宜カラウト思フガ、アナタハ如何思召ス」

「成程其考ハ宜イ、ケレドモ札幌ノ松本判官ハヤカマシイ人ダカラ、私一己デスル訳ニ行カヌ、長官ニ相談シテ見ヤウ」、其当時函館ノ長官ハ杉浦梅潭ト云フ人デ、詩人トシテ聞エテ居リマス、中判官デゴザイマシタ。此人ニ相談シタ所ガ「ソレハ三井ノ言フ方ガ尤モナノダカラ、二人デ津島ヲ呼ンデ、三井ト三人打合セテ相談シヤウデヤナイカ」ト云フコトデ、判官ノ傍ヘ呼ンデ呉レマシテ、私ガ行ツテ能ク弁明シタ、サウシタ所ガ中判官ノ命令デスカラ、遂ニ津島モ私ノ言フコトヲ聴イテ、為替ニ取ツテ八百幾ラカ手数料ヲ儲ケタノデス。津島ハ其儘ニ東京ヘ来マシテ、本店デ現

金ヲ授受シテ事柄ハ済ンデシマツタ。所ガソレヲ聞イテ札幌ノ大判官ガ非常ニ怒ツテ、途中デ函館支庁ノ命令ヲ受ケテ、本庁ノ命令ニ背イテ為替ニシタト云フノデ、津島ハ用ガ済ンデモ札幌ニ帰

レス、帰レバ免職ニナル。其報知ヲ東京カラ得マシタカラ、私ハ又東京へ出て来て、三野村ニ相談シタ所ガ、「面倒臭イガ儲カツタ事デハアルシ、今後モサウ云フ事ハ往々アル事デ、此処ガ大事ダカラ一ツ黒田ヘ行カウ」ト云フノデ、二人デ黒田清隆サンノ処ニ行ツタ、其時黒田サンハ長官デゴザイマシタ。私ガ纏々其事ヲ弁解シタ所ガ、聴イテ居ラレマシテ、「ソレハ三井ノ言フ方ガ尤モダ、其ノ為ニ三井ガ出張シテ居ルノダカラ、私カラ札幌ノ方ヘサウ言ツテ遣リマセウ、決シテ心配スルナ、尚是カラ往々斯ウ云フ事ガアラウカラ、能ク其事モ達シテ置タカラ」ト云フコトデゴザイマシテ、私大キニ喜ンデ函館へ帰りマシタ。サウスルトモウ黒田サンノ命令デ行ツタモノダカラ、小言ヲ言フコトガ出来ヌ、却テ津島ハ東京ニ滞在シテ居ル中ニ一級上ツテ帰ツタ、大層自分デ喜ンデ居リマシタ、「御蔭デ一級進ンダ」ト礼ヲ言ハレタコトガアリマス。此人ハ後、札幌村長ヲシテ居ツガ、今居レバ八十以上ダラウト思ヒマス、津軽ノ藩デ、工藤行幹ナド、同県デゴザイマシタ。私ガ參ツテカラ電信ガ彼処へ出来タノデスカラ、其前ハ手紙ヲ一通送ルニモ、運賃ガ二十銭乃至三十銭位懸カリマシタ。

(岡)其時分ニ函館マデ行クニハ……。

私ガ旅費ヲ五十円貰ヒマシタ、店ノ規則デ——、以下ノ者ハ二十五円デス。五十円デ船賃ヲ二十五円払ツテ廿五円残ツタ。ソレカ

ラ私ガ連レテ行クモノハヤハリ上等ニ入レテ、足シ前ヲシテ連レテ行キマシタ。三日間掛リマシタ。

ソレカラ横浜ハ函館トノ間ニ始終逆為替ガ多ウゴザイマシタ、函館デ支那人ニ渡ス金ヲ、横浜ノ支那商館カラ受取ル、ソレデ金ヲ始終横浜カラ函館へハ現送シナケレバナラス。所ガ一度庚午丸ト云フ船ハ現金ヲ一万五千円積ンダ、其運賃ヲ節スル為ニ五千円トシテ送ツタ、田村利七ガ横浜ノ支配人デゴザイマシタ。然ルニ此船ガ南部ノ大間浦ト云フ処デ沈没シタ、其当時航海ガ杜絶シテ居ツタカラ、沈没シタコトガ分リマセヌデシタ。スルト一日開拓使ノ七等出仕柳田友郷ト云フ人ガ上陸シタ、柳田サンガ来タガ、柳田サンハ庚午丸デ来タ筈ダ、サウスレバ矢張り沈没シタ船デ来タノダカラ、直ニ行ツテ様子ヲ聞カウト云フノデ、旅館ニ行ツテ聞イタ所ガ「私モ庚午丸デ来タ」トキニ横浜カラ私ノ方ヘ金ヲ送ツテアルガ、其金ノ安否ガ誠ニ懸念ニ堪ヘヌ、何カ御聞及ビハアリマスマイカ」ト云フト「会計ノ室ニアツタモノダケハ残ラズ持上ツタ、金ノ事ナラバ必ず会計ノ室ニ有ツタニ相違ナケラウ、サスレバ、心配セヌデモ金ハ無事ニ着スルダラウ」斯ウ言ツテ呉レマシタ。「失礼ナガラ其事ハ、他日アナタガ仰シヤツタコトヲ私ハ証言ニスルカラ、ドウカ其思召デ居ツテ貰ヒタイ」ト、確ク其言ヲ保留シテ置キマシタ。ソレカラ暫ク経ツト、段々上陸シテ參リマシタケレドモ、金ハ持つて来ナイ、ソレカラ船員ヲ残ラズ呼びマシテ、一室ニ集メテ「金ハドウシタ」ト云フ所ガ、黙シテ挨拶ヲセヌ。「ソレデハ言フガ、先日柳田サンガ上陸シテ、会計ノ室

ニアツタ物ハ悉ク持上ツテ無事デアルト云フ証言ガアル、シテ見レバ横浜カラ送ツタ金ノ無事ナルコトハ明カデアアル、然ルニ其金ヲ届ケヌト云フハ如何ナル訳デアルカ」ト責メタ所ガ、已ヲ得ズ「実ハ申訳ガナイガ難破ノ際ニ金ガナイカラ、総テノ始末ニ差支ヘテ、横浜ノ店カラ送ツタ金ノ箱ヲ封ヲ破ツタ、サウシテ実ハ使ツタ、ソレ故ニ届ケルコトガ出来ナイ」其実ヲ言フト、蓋ヲ開ケテ見タ所ガ五千円ヂヤナイ一万五千円アツタ、五千円ノ運賃ダケヲ払ツテ横浜デトシタノデスカラ、五千円ソツト持ツテ来ラレテモ誠ニ困ルノデス、非常ニ其時ハ苦心シマシタガ「サウ云フ場合ハ仕方ガナイ、ソレデハ其使ツタダケノ金ハ船員連署デ証書ヲ御書キナサイ、サウシテアトヲ皆御出シナサイ、幾ラ使ツタ」ト云フト、何デモ七百円許リ使ツタ、ソレカラ残ラズ連印デ証書ヲ書カセ、残金ヲ悉ク持ツテ来サシテ、直グ其事ヲ電信デ横浜及本店ヘ報知シタ所ガ三野村ガ非常ニ喜ンデ、其処置ガ宜イト云フノデ、取敢ヘズ私ニ金ヲ百円、店員一同ヘ五十円寄越シマシタ、是ハ柳田サンヲ早く私ガ訪問シタ為ニ此事が出来タノデゴザイマス。

小野組ノ鎖店ハ霹靂一声全国ヲ震撼スト云フヤウナ勢デ、之ガ為ニ財界ハ非常ノ動搖ヲ来シテ、大藏省ハ其ノ為ニ監査局ト云フモノヲ設ケマシタ。我三井組モ絶大ノ苦痛ヲ感ジテ、世間デハモウ殆ンド三井モ同様デアルト認メタ位デゴザイマス。私ハ当時函館ニ居リマシテ、其報ヲ得テ直ニ出京ラシテ、総テノ打合せヲ致シマシタ。政府カラ内命ガアリマシテ、金額相当ノ抵当ヲ出セト云フ事ノ御指図ガアリマシタ。凡ソ取調べマシタ所ガ四百万円、当

時ノ四百万円ト云フモノハナカク、大変ナモノデゴザイマス、有価証券ハ勿論、土地カラ家屋、古金銀ノ類ニ至ルマデ、手ノ届ク限りヲ集メテ、此納付方ハ高野栄二郎ガヤリマシタ、日ニ幾回トナク纏マル運ブ、纏マル運ブト云フヤウナ工合ニシテ、三野村氏以下重要衝ニ当ル者ハ殆ド寝食ヲ忘レテ奔走シ、徹夜ヲスルコトハ常デゴザイマシタ。ソレデモ世間デハ、モウ三井モトテモ抵当全部ノ完納ハ覚束ナイト云フノデ、銀行ノ前へ時々人ガ来テ見テ居ルト云フ位ノ勢デゴザイマシタ。丁度四、五日ノ間ニ大抵抵当ヲ集メテ——三越呉服店ノ家屋ナドモ慥カ抵当ニ入レマシタ、ア、云フ物カラ、横浜ノ倉庫カラ、凡ソ三井ノ三ノ字ノ附イテ居ル物ハ有ユル物ヲ入レテシマツタ、ソレデドウシテモ最後ニ不足ガ出来タ、四百万兩纏マラナイ。重役モ額ヲ集メ、終日其事ニ勞シテ居ツタケレドモ、ドウモ抵当ガ不足デ如何トモ仕様ガナイ。併シドウシテモイカヌト云ツテ、此儘過ギル訳ニハ行カナイ、何トカ方法ヲ設ケナケレバナラン、店ノ取引先ハ各々疑ヲ起シテ来ルモノデゴザイマスカラ、殊更ニ銀行ノ入口ニハ大札ヲ積ミマシテ、僅カノ金額デモ大札ヲ積ンデ渡ス、紳々トシテ余裕アルコトヲ示ス策ヲ取りマシテ、内ハ重役ガ悉ク集ツテ協議ヲシテ、東西奔走シテヤツテ居ル、最後、ドウシテモ抵当ガ足りナイト云フノデ、抛ナク地所ノ価格ヲ上ゲタ。其価格ヲ上ゲルコトハ、平尾贊平ノ考案ナノデゴザイマス。価格ヲ上ゲルニ付テハ、ドウシテモ八郎右エ門様ノ実印ガ要ル、ソレカラ京都ヘ印ノ必要ナ事ヲ言フテ遣リマシタ所ガ、中井三平サンガナカク、聴カナイノデス。「今

此場合ニ臨ンデ、三井家ト雖モドウデアアルカ分ラス、八郎右エ門様ノ印ヲ東京ヘ送ルナド、云フ事ハ心元ナイカラ、先ヅソレハ止サウ」ト云フ、ソレデ余儀ナク平尾ガ、鶴見ト云フ印版屋ヲ呼ビマシテ、八郎右エ門様ノ印ヲ拵エタノデス、其印デスツカリ売買ノ手続ヲシテ、価格ヲ上ゲルコトニシマシタ。

(岡)ソレハ重役ガ承知ナノデスカ。

多クノ重役ハ知ラスデス、三野村ト平尾、中ニハ知ツテ居ル者モゴザイマスケレドモ、先ヅ普通重役ハ知ラス方デゴザイマス。ソレガ為ニスツカリ此抵当ガ完納ガ出来マシタ。

(岡)一体大蔵省デ、ドウシテサウ云フ無理ナ事ヲヤツタモノデセウ、小野組ガ危イ、政府ノ金ガ無駄ニナツテシマウト云フ心配カラ始メタノデセウケレドモ、随分乱暴ナ事ノヤウデスネ。

左様デス、ドウモアノ時ニハ、ドウ云フ訳デア、云フ事ニナリマシタカ……

(岡)何トカ政府デモ、モウ少シ穏ヤカナ方法デ、抵当ヲ出スニシテモ、順次ニ出サセルトカ何トカヤリサウナモノデスネ。

過激ナヤリ方デシタ。ソレカラ三野村ノ挙動ニ余程怪シイ事ガアツタノデス、抵当ガ略々完納済ノ際デゴザイマス、高野ガ心付キマシテ「ドウモ此頃、事ニヨツタラバ三野村ヲ政府デ抑留シテシマツテ、三井家ノ身代ヲ洗フヤウナ事ヲシハセヌカ」、当時小野組ノ重役ハ皆政府ニ引上ゲラレテシマツタ、一時大蔵省ニ留メラレテ家ヘ帰サナカツタ。「事ニ依テソノ事ニデモナルト、実ニ三井家ノ方針ガ立タナクナル」ト云フノデ、平尾ニ相談ヲシマシ

テ、平尾ガ私ノ処ニ参ツテ斯ウ「斯ウ」云フ事ヲ高野ガ言ハレルガ、ドウモ私モ考ヘテ見ルト、或ハソノ事ガナイトモ限ラヌカラ、能ク三野村ニモ此事ヲ忠告シテ、相談ヲシテ見ヤウト思フ」ト夜参ツタコトガアリマス。私ハ他ニ用ガゴザイマシタカラ「ソレデハ君ト二人デ能ク其事ヲ注意シテ貰ハウ」ト云ツテ別レマシタ。翌日三野村ヘ二人ガ談ジマシタサウデゴザイマス、「ソノナ事ハ決シテアルマイト思フケレドモ、併シ此場合私モ政府ノ方針ガ悉ク安心ト云フ事ハ出来ナイ、能クソレハ注意シテ呉レタ」ト言ハレタサウデアリマス。世間デハ三井組ノ顔色ガ変ツテ居ルト云ツタ位デアリマス。

此小野組鎖店ノ当時ニ、金ヲ隠シタ事ガアル。是ハ誰モ知りマセヌガ、第一銀行ノ株ヲ、大阪ニ五代才助ト云フ人ガアリマス、其五代サンノ名前ニ十四、五万円邊ニ書キ換ヘタ、真ニ間髪ヲ入レザル場合デアツタ。

(岡)小野組ガデスカ。

サウデス、サウシナイト政府ニ皆取ラレテシマウカラ。ソレデ小野組ハ政府ノ処分ヲ受ケタガ、ソレガ有ツタモノデスカラ、内部ニハソレガ為ニ大キニ楽ヲシタラシイ。是ハ誰モ知りマセヌデシタガ、私ハ秘密ニチヨツト聞キマシタ。私ハ函館ニ直チニ帰ツテ居リマシタ所ガ、全国支店ヘ皆、抵当ヲ完納シタカラ安心シテ業務ヲ執レト云フ事ヲ、本店カラ急報シマシタ。所ガ私ノ方ハ、開拓使ノ準備金ト云フモノガアル、是ハ手ヲ着ケラレナイノデゴザイマスケレドモ、本店ガサウ云フ場合デゴサイマシタカラ函館支

店ノ方モ成ベク本店ヲ助ケル積リデ金ヲ此方ヘ送ツタモノデゴザイマス、然ルニ開拓使カラ臨時検査デゴザイマス。ドウシテモ準備金ダケノ金ガ無イ、仕方ガナイカラ二錢銅貨ヲ二十円金貨ニシテ、封ジテ検査ヲ受ケマシタ、余程其時ニハ危険デゴザイマシタ。

(岡)中ハ調ベマセスデシタカ。

殆ドソレヲヤルバカリニナツタノデス、是ハ私ノ腹切り仕事デアツタノデスケレドモ、此所ガ一ツ三野村ノ言ツタ断ノ字ダト思ヒマシテ、旨ク態度ヲ示シテヤリマシタ所ガ、好イ塩梅ニ其中ノ役人ガ「マアサウ手数ヲセヌデモ宜ラウ」ト言ツテ呉レタ人ガアツタ、ソレデ纔ヤク危急ヲ免レタ。私ハ時々此事ヲ思ヒ出スト、実ニ何トモ言ハレス心持ガスル。

(岡)ソレハ小野組ノ關係ノ時ノ事デスカ、時々貴方カラ御話ガアツタケレドモ……。

サウデス。ソレカラ小野組ガ閉店シマシタノデ青森ノ支店モ無クナツタモノデスカラ、青森県知事カラ、出納ガ不便ダカラト云フノデ本店ヘ内議ガアリマシテ、当時ノ県ノ参事ガ塩谷良翰サンデ、三野村ヘ話ガアツテ、三野村カラ私ヘ急報ガアツタ、青森ヘ支店ヲ置クコトニスルカラ、同地ニ出張シテ能ク取調ベラシタヲ宜ラウト云フ。参リマシタ所ガ、丁度小野組ノ居ツタ店ガアル、其入札ヲヤリマシタガ、私ハ入札ナドヤツタコトガナイノデ馴レマセヌデ、七百元ト入札シタ所ガ、土地ノ伊藤善五郎ガ七百十二円五十銭ト入札シタ。ソレガ為ニ私ハ失敗シマシテ、漸ク塩谷サンヤ其他ノ県官ニ頼ミマシテ、百円余計伊藤ニ遣リマシテ其店ヲ

買ヒマシテ、青森支店ヲ置キマシタ。

(岡)青森ハドノ辺デス。

米町デス、今ハ青森ニハ店ガ無イヤウデスナ。

(岡)今ハアリマセス、皆官金關係ノモノハ止メテシマヒマシタカラ。

此航海ノ時ニ、松本順サント船デ一緒ニナリマシタ。奥州石浜カラ一緒ニ乗船シマシタガ、金華山沖デ夜分非常ニ風浪ガ高イ為ニ松本サンガ困難ヲシマシテ、私ガ介抱シテ上ゲマシタ。松本サンガ「維新ノ当時、榎本ト屢々此所ヲ航海シタガ、其当時コンナ苦ミハ覚エナイ、ドウシタモノダラウ」ト言ハレルカラ、私ガ「ソレハ貴方ハ今陸軍軍医総監デ、御職ガ御職ダカラ船ハイケマスマイ」ト言ツタラ先生笑ツテ居ラレタ。其後函館ヘ行ツタラ、再び函館ヘ来ラレテ、為換座ヘ見エマシテ「今度札幌ヲ歩イタ所ガ、馬ニ乗ツテ尻ヲ痛メテシマツタ、蒲団ヲ貸シテ貰ヒタイ」「先生先頃ハ船デ悩ミ、今度ハ馬デ悩ム、ソレデハ陸軍モイケマスマイ」ト言ツタラ「私ハ駕ニ乗ツテ登城スル方ハ得意ダケレドモ、ドウモイカス」ナド、仰シヤイマシタ。其後三野村ガ病氣デ、先生ガ診察シタコトガアリマス、私ハ先生ニ戯レニ「貴所ハ軍医総監デ居ラツシャルケレドモ、病ヲ医ス方ハ余リ御上手デナイト云フ説ヲ世間デ頻リニ言ヒマスガ、ドウ云フモノデセウ」ト云ツタラ「私ハ病人ヲ治スノヂヤナイ、病人ヲ治ス医者ヲ拵ヘルノダカラ、ソレハ大變考ガ違フ、全体私ガ医者ヲシテ居ルト云フノハ間違フテ居ル」「ソレデハ貴方ハドウ云フ事ヲ目的ニナサツタラ宜イノ

デセウカ」ト云ツタラ「私ハ全権公使ダ、全権公使ニナレバ、忽チ世界中円メテシマウ趣向ガアルノダカラ」ト仰シヤイマシタ、頻リニ全権公使ハ望シデ居ラレタヤウデス。至ツテ懇意ニシタ為ニ、軍医部ノ事ハ誠ニ宜ウゴザイマシタ、銀行トノ關係ガ――。

ソレカラ函館支店ノ交代ヲ請求シマシタ。是ガ八年デゴザイマス。函館支店ガ漸ク半季三千円内外ノ純益ガアルコトニナリマシ、在勤モ二ケ年ニナリマシタカラ、兼テ申上ゲタ開墾ノ方ヲ、例ノ手数料分与ガ愈々金ニナツタラ、其金ヲ以テ室蘭ト函館ノ七飯近傍、二ヶ所許ニ土地ヲ払下ヲシテ能ク重役ト相談ヲシテ、之ヲ三井家ノ事業トシテ、私ハ専ラソレヲヤラウト云フ考デ居リマシタ。然ルニ突然ト平尾贊平カラ文通デ、兼テノ府県係ノ手数料分与ノ事ハ、種々重役ガ協議ヲシタ所ガ、余リ給与ガ多額ニナル、然ルニ近來大阪支店ガドウモ純益ガ少イ、故ニ大阪地方ノ支店ヘ收入スル所ノ金額ハ、悉ク大阪ノ店ヘ収益トシテ入レテシマウ、東京直轄ダケノ分ヲ府県係ニ分与スルカラ、御前カラ松島ヘ其事ヲ能ク通シテ呉レト云フ事デアアルガ、平尾自身ノ考ニハ甚タ不条理デアアルト思フカラ、兎モ角君ガ一ツ東京ヘ來テ、三野村トノ約束モアルノダカラ、能ク其事ヲ申立テタラドウドダト云フ事デアリマシタ。現ニ其手紙モ今私ハ持つテ居リマス。私考ヘマスノニ、ドウモ重役ガ皆協議シテスル事ヲ、私ガ一人行ツテ彼是論ズルノモ、余リ自分ニモ快クアリマセヌカラ、ソレデハ折角自分ガ計画シタケレドモ、其事ヲ廢シテシマヘバソレデ宜イ、命ノ通り幾ラデモ下サルダケ貰フコトニシヤウト云フノデ、平尾ニ其返事

ヲヤリマシタ、サウシテ折角計画シタ事ヲ抛棄シテシマヒマシタ。ソレデモ府県係ニ受領シマシタ金額ガ彼是六千円程デゴザイマシタ、私ハ最初三万円戴ク積リノ考デアツタ。

(岡)大變ナ差デシタナ。

重役ハ私ガ一人デソレヲ取ルモノト考ヘテ居ツタ、私ハ又受領シテカラ能ク其事ヲ言ハウト云フ考デアツタモノデスカラ、其行違ヒデゴザイマシタ。偕サウ云フ事ニナリマシタカラ、私モ成ベク早く東京ヘ帰ラウト存ジテ、本店ヘ其事ヲ請求シマシタ所ガ、幸ニ三野村カラ内議デアツタ、今度伊勢、尾張、美濃地方ノ貢米ノ扱ヒヲスル、ソレデ大藏省ヘモ内々御相談申シテ置イタカラ、其事ガ指令ニナレバ直ニ此方二人ガ要ルカラ、兎ニ角早く帰京シロト云フ三野村カラノ沙汰デゴザイマス。デ私ノ交代ニ桜井徳兵衛ト云フ者ガ參リマシタ、是ハ昨日申シマシタ仮鬘ラ被ツタ爺デゴザイマス。私ハ東京ヘ帰ルナリ直グ三野村ニ挨拶ヲスルト、三野村ガ「函館ニ行ツテカラ能ク地方ノ事情ヲ探ツテ、荷為換其他ノ方法ヲ設ケテ、是迄一回モ純益ノ無イ支店デアアルガ、お前ガ行ツテカラ純益ガアルコトニナツテ、誠ニ是ハ銀行ノ為、且又お前ノ為ニハ名譽ノ事デアアル、今後一層銀行ノ為ニ力ヲ尽シテ貰ヒタイ」ト言ハレマシタ。「ソレハ誠ニ有難イ御言葉デアアル、何分私ハ青年デ、ナカ／＼私一己ノ働デシタ訳デハナイ、本店ノ指導ノ良イ所カラ此ニ至ツタノデアアルガ、唯茲ニ甚ダ遺憾ニ堪ヘナイ事ガアルノハ、府県係ノ手数料ノ一件デアアル、是ハ私ハ全部下サルコトニナツタ所ガ、私一己デ全部ソレヲ積リデハナカツタ、

出立ノ時平尾ニモ能ク其事ハ談シテ置イタ筈デアルガ、折角私ガ北海道デ計画シタ事ガ、之ガ為ニ水泡ニ帰シテシマッタ、誠ニ無限ノ失望、遺憾ノ極、今デハ却テ貴方ヲ恨ムヤウナ事情ニナツテ来タ、誠ニ遺憾ナ訳デアリマス」ト言ツタ所ガ、三野村ハソレヲ聴キマシテ暫ク黙ツテ居リマシタガ、「ドウモ近頃大坂支店ノ純益ガナイ為ニ、府県手数料モ大阪管轄ノ方ハ残ラズ大阪へ入レルコトニシタ、ソレガ為ニ御前トノ約束モ違約スルヤウナ場合ニナツテ来タ、マダお前ナド八年モ若シ、前途遠慮ダカラ、何カ又好イ機会ガアルダラウ、暫ク耐忍シロ」ト言ハレマシタモノデスカラ、傍ニ重役ノ麻田・森ナドガ聴イテ居リマシテ、顔ヲ横ニスルヤウナ訳デ、私ハ悄然ト辞シテ帰ツタノデゴザイマス。ソレカラ間モナク名古屋・岐阜ト三重県ノ支店ノ調査ヲシテ来イト云フコトデ、此三県ハ私ガ出張致シマシタ。取敢ヘズ名古屋へ参リマシテ、名古屋ノ支店ヲ検査シ、県令ノ安場サンニ面会ヲシマシタ。安場サンハ誠ニ私共ニ対シテモ胸襟ヲ披イテ、少シモ障壁ナク御話下サル方デシタ、牧民官ノ中デ、私ハ一番安場サンニ敬虔ノ念ヲ深クシテ居リマス。前年安場サンノ御伴ヲシテ王子ノ製紙会社ヲ見タコトガアリマスガ、其帰途ニ私ノ駒込ノ別荘ニ休息致シマシテ、丁度私ガ宮本無三四ノ自画像ヲ持ツテ居リマシタ、良イ幅デアリマシタガ、ソレヲ安場サンニ御覧ニ入レマシタラ、藩ニモナカク々々無三四ノ画ガ多イケレトモ、此物ノヤウナノハ誠ニ稀デアルト、大層御賞メニナリマシタ。ソレカラ直ニ私ハ先生ニソレヲ呈シマシタラ、大層喜ンデ持ツテ御帰リデ、後ニ僧ノ五岳ノ山

水ヲ二枚、礼ダカラト云ツテ私ニ贈ツテ呉レラレタコトガゴザイマス、其以來別シテ親密ニ御話ヲ致シマシタ。名古屋ニ私ガ参リマシタ時ニ、種々話ノ中デ「廟堂デ一番貴方ガ信頼ナサル方ハ誰方デゴザイマスカ」ト言ツタラ「私ハ大久保公ガ一番アル、公ノ言行ハ国家アツテ一身ナシト云フ訳ダ、同列中一頭地ヲ抜ク、私ハ実ニ公ヲ慕フ」ト言ハレマシタ。ソレカラ直ニ岐阜ニ参リマシテ、岐阜支店ヲ検査シマシテ、権令ノ小崎利準氏ニ面会シマシタ。此小崎サンハ、笠松県以來ズツト岐阜ニ継続シテ、アノ県ノ初カラ居ル人デゴザイマス、至テ堅固ナ御人デ、岐阜県ハマダ其時分ニ芸妓モ娼妓モ置キマセヌデシタ。是ハ私ガ行ツタ時ニ話デ聞キマシタノデスガ、板垣サンガ彼処ヲ遊説ナサイマシテ、宿屋デ凶漢ニ胸ヲ刺サレタ事ガゴザイマス。其時ニ県官ハ誰モ訪問シナカッタ、スルト其報知ガ東京ニアツタモノデスカラ、陛下ガ勅使ヲ御立テニナツテ、板垣サンヲ御下問ニナリマシタ。勅使ガ来ルノニ県官ガ出ナイ訳ニ行カナイ、大キニバツガ悪クテ、急ニ県官ガ板垣サンヲ訪問スルト云フヤウナ事デアツタサウデス。ソレカラ三重県ニ参ツテ三重県ヲ検査シマシタ。三重県ハ其当時五ヶ所支店ガアリマシタ、一県下ニ五ヶ所モアツタノハ三重県バカリデ、松坂、山田、四日市、津、伊賀ノ上野。私ハ飛騨ノ高山ト伊賀ノ上野ダケハ見ズニシマヒマシタ、誠ニ遺憾ニ思ツテ居リマス。其当時度会県ガ廃止ニナツテ三重県ニ合併ニナリマシタ、突然ト「其県廃止三重県ニ被併候条土地人民引渡可申事」ト云フ電報一枚デ県ガ無クナツテシマウノデスカラ、随分盛デシタ。

(岡)何年デス。

暴動ガ九年デシタカラ八年デゴザイマセウ、往復書類ヲ見マスト是ガスツカリ分ルノデアリマスガ、大分錯雜シテ居マシタカラ、ツイ調べズニ参リマシタ、八年ノ冬デゴザイマシタラウ。

ソレカラ本店ノ大逼迫デゴザイマス。小野組ノ瓦解後、小野ノ業務ガ皆三井家ニ属シタモノデスカラ、非常ニ繁忙ニナツタ、随ツテ金銭ノ授受ガ莫大ナコトニナリマシタケレドモ、当時小野組ノ影響ガドウモ去リマセヌデ、内部ノ都合ガ余程悪カツタノデゴザイマス。ソレニ三野村氏が指圖シマシテ、諸方ニ事業ガアツタ、下総ノ原野ノヤウナモノ、ア、云フ者ハ皆投資一方デ、少シモ回収ノ途ガナイモノデゴザイマスシ、金ハ融通ガ宜イ為ニ、随ツテ貸出ヲ多クシマシタシ、三谷、小野、島田、三家ノ不動産ノ流レ込ノ物ガ沢山アル、是ハ抵当ニハナツテ居リマスケレドモ、普通ノ生産ニハ立タヌノデアリマスカラ、金高ニハ上ツテ居リマシテモ、到底都合ノ宜イ訳ニハ行カナカツタ。終ニ大蔵省ニ上納シマスル金ガ渋滞シテ、段々ソレガ積ツテ二百万円ニナツテシマツタ、大蔵省カラハ嚴重ノ沙汰ニナル。当時三野村ガ貢米ノ方ノ取扱ヲ願出テ居ツタ、之ヲ早く大蔵省デ指令シテクレルト、其貢米ノ方ノ運転デ此金額ノ運転ヲ附ケル積デアツタ、所ガ指令ガ遅イ為ニ、此上納ノ方ガ先ニナツテシマツタ、ソレガ全ク一ツノ蹉躓デゴザイマス、コンナ事ニナル筈ハ無カツタノデアリマス。大蔵省ヘ再三再四延期ヲ願ツタノデゴザイマスガ、其延期ノ取次ハ、始終高野栄二郎ガ日トナク夜トナク出タノデゴザイマス。

(岡)併シ三野村ナント云フ人ガ、能ク政府ト結托シテ、当路ノ人ト懇親ヲ結ンデ居ツタガ、何故ソノ手拔リヲヤツタノデセウ、モウ其時分ハ多少老耄シテ来タノデスカ。

サウデモゴザイマセヌガ、三野村モ九年カラ少シ氣力ヲ損ジテ居リマシタ、翌年死ス位デスカラ。病氣ヲ私ハ能ク知リマセヌガ、銀行ノ開業ノ時ニハ三野村ハ病氣デ出マセヌデシタ。ソレデ開業ノ当日ハ三郎助様ガ代理デ祝文ヲ御読ミニナリマシタ。大蔵省カラハ屢々督促ヲ受ケル、奈何トモソレヲ運転スルダケノ策ガ附キマセヌデ、三野村ハ寢食ヲ忘レテソレヲ苦心シテ居ツタ、重役中非常ニ相談ヲシタノデスケレドモ、ドウモ仕様ガナイ、二、三ノ旦那方ニモ御相談ヲシタケレドモ、是以テ別ニ好イ御分別モナイ、多クノ重役ハ顔ヲ揃ヘテ出テ居ルケレドモ、此場合ニ臨ンデ斯ウシタラ宜ラウト云フ意見ノアル人ガ一人モナイ。ソレデ三野村ガ私共七名ヲ呼ビマシテ「私モ已ニ先年三井家ノ事ニ付テハ辞表ヲ出シタコトガアルケレドモ、其当時種々ノ事情ノ為ニ中止スルヤウナ場合ニナツテ、今日迄此責ヲ一身ニ負ウテ来タケレドモ、勢ヒ今日ノ所ハ私モ仕方ガナイカラ、ドウシタラ宜イカト実ハ昨夜カラ寝ズニ考ヘテ居ル、今夕一同ヲ呼ンデ能ク相談ヲシテ、一同ノ意見ニ依テ私モ亦非常ナ決心ヲシナケレバナラヌ」と云フコトデゴザイマシタ。其三野村ノ言葉ガ、誠ニ言々皆肺腑ヨリ出ツルト云フヤウナ風デ、私共其胸中ヲ察シテ大ニ感奮シタ訳デゴザイマス。併シ私共ニ御相談トイツテモ、御即答スル場合デモナイカラ、平尾ト高野ガ「能ク是ハ一同デ協議ヲシテ御答ラスル事ニ致

シマセウ、勿論私共一同、此間カラ密ニ此場合ヲ憂ヘテ居ツタコトハ屢々デアアル、今貴所カラ此談示ガアツテ見ルト、一日モ是ハ捨置クベキモノデナイカラ、能ク協議ヲシテ御挨拶ヲシマセウト云フノデ、其晩七人が徹夜ヲシマシテ「ドウシタラ宜ラウ、大藏省ノ方ガ此上延期ガ出来ヌト云フ事ニナレバ、必ズ得能ト同シヤウニ直ニ手下サレルコトニナルニ違ヒナイ、サウ云フ危険ナ場合ヲ待タズニ、此方カラ一ツ考案ヲ立テタラ宜ラウ、此上延期願ヲシテモ、ソレヲ許可ガナイモノトシテ一ツ方針ヲ立テヤウデヤナイカ」「ソレハ宜ラウ」「サウスルニハドウシタラ宜ラウ」「第一三井家ノ財産ヲスツカリ調べテ、サウシテ政府へ出シテアル抵当ヲ今下ゲル訳ニハ行カナイカラ、其中ヲ種々抜キ差シヨシテ、御同族八軒ノ維持法ヲ立テ、置カズバナルマイ、ソレカラ二株、三株ト云フ小株主ハ、非常ニ都合ノ悪イ所ヲ加入シテ居ルノダカラ、ソレ等ノ者ハ悉ク此方デ買上ゲルコトニシテ金ヲ払ツテヤラウ、サウシテ最後ニハ先ヅ銀行解散ト云フ事ニ決心ヲシナケレバ行クマイ、ソレニ付テハ何時政府ノ方カラ命令ガ来ナイトモ限ラス、予メ其方法ヲ密ニ講ジナケレバナルマイ」「ソレデハ其事ニシヤウ」ト云フノデ其夜暁ニ別レマシテ、翌日私ハ専ラ総テノ調査ヲヤリマシタ。皆其係々ハ内々調査ヲサセマシテ、公債係ハ公債ヲ調べ、地所係ハ地所ヲ調べルト云フヤウナ事デ、総財産ヲ調べテ、其中カラ五十万円ダケヲ抜クコトニスル、抜クニハ他デハ抜ケナイカラ公債デ抜クヨリ仕方ガナイ、何時デモ其五十万円ダケノ公債ハ、誰ニモ知サズ抜ケルヤウナ工夫ヲシナケレバナラ

スト云フノデ其法ヲ設ケマシタ。大藏省ニ入レテアルノヲ抜キ差シヲシタリ色々シテ其便宜ヲ計ツテ、公債係ニチヤント其手管ヲ定メテ、迎モ許可ニナラヌト云ツタラ、銀行ノ金ヲ動かスト云フヤウナコトハ誠ニ拙ダカラ、公債デ抜クコトニ定メテ「一同此事ハ決シテ誰ニモ他言ハセヌ、各重役ト雅モ言ハヌコトニシヤウ」、勿論重役ガ斯ウ云フ手段ヲ知りマセヌデモ、私共七名ガ申合セテ居ルト、総テノ事ガ其時分出来タモノデゴザイマス、皆係々デアルモノデスカラ。皆血判ヲシテ他ニ漏サヌコトニシテ、ソレカラ上申書ヲ拵ヘテ三野村へソレヲ出シマシタ。三野村ガ之ヲ見テ「能ク説ンデ聴カセロ」読ミマシタ所ガ「誠ニ是ハ考ガ極点デアアル、併シ此位ノ考ヲシテ呉レタノハ誠ニ忝ケナイ、私モドウカト思ツタケレドモ、斯ウ迄一同ガ決心スル以上ハ、之ヲ後援トシテ今一層尽力シテ見ヤウ、デ私ガ非常ナ奔走ヲシテ此事ニ就テノ計画ヲスルカラ、私ガ挨拶スル迄ハ公債其他総テノ物ヲ其儘ニ置イテ、何時デモ処分出来ルヤウニシテ私ノ挨拶ヲ待ツテクレ、縦令重役ト雖モ此事ハ漏シテハイカヌゾ」ト言ハレマシタ。其後二、三日経ツテ三野村ガ私共ヲ呼ビマシテ「漸ク少シ政府ノ方ノ都合モ好イ事ニナツタカラ、一同少シハ安心シテモ宜ラウ、併シマダ屹度好イト云フ訳デハナイカラ、一同ノ此書類ノ事ニ付テハ色々政府ノ方ニ交渉シタコトガアル」ト云フノハ井上サンデスカ大隈サンデスカ、ソレハ言ヒマセヌデシタガ、此二人ノ中デゴザイマス。ソコデ大藏省ノ延期ガ少シ出来マシタモノデスカラ、一同漸ク食ノ味ヲ知ルト云フ位ニナツタ。其当時デゴザイマ

シタ、前ノ八郎右エ門様ト三郎助様ト二人ガ、七名ヲ呼ンデ「利左衛門カラ能ク話ヲ聞イタ、一同ノ者ガ心配シテ呉レテ誠ニ忝ナイ、此事ハ自分達ガ永ク忘レス、尚此上モドウゾ尽力シテ貰ヒタイ」ト仰シヤツタ。殊更ニ一同デハアリマセヌガ、二名、三名位ヅ、御招キガアツテ、其御話ガアリマシテ、漸ク此一大難関ヲ切抜ケマシタ。其四、五日ノ種々相談スル間ニ、藤田ガ私共ニ言ツタコトガアル「若シ政府ガ之ヲ許可シナイトナツタナラバ、私ハ別ニ考ガアル」ト云フカラ、「其考ノアル所ハ同盟者ニ告ゲテ呉レヌデハ困ル」「イヤ決行シタラ分ル」「決行シタラ分ルケレドモ、ソレデハ誠ニ困ル、同盟者ニ能ク君ノ意見ヲ言ウテ置カヌト都合ダカラ」ト云ツタ所ガ「若シ政府ガ許可シナイトナツタラ、其晩私ガ宿直スル、サウシテ金庫ヲ焼イテシマウ、三井ガ金庫ヲ落シテシマツタト云ツタナラバ、政府デモ寛典ノ処分ガアラウ、又ドウトモ言ヒ訳モ出来ヤウ、其責ハ私ガ一身デ負ウカラ、後ハ諸君ガ宜シクヤツテクレ」斯ウ云フ事ヲ言ハレマシタ「ソレハドウモイカヌ、人ハ生命ヲ貴シトスルノデ、ソナ過激ノ事ヲシテシマツテハイカヌ、生命ガアツテノ財産デアルカラ、ソレハ迎モイカヌ」ト云フコトヲ私ガ言ツタ事ガアル。サウスルト又麻田左衛門ガ、頻リニ此七名ノ拳動ヲ怪シマシテ「ドウ云フ事情カ能ク聴キタイ」と云フ、私ハ告ゲズニ置キマシタラ、高野ト平尾ガ麻田ヲ呼ンデ「若シ私共ノ今心配シテ居ル事情ヲ貴方ガ知リタイト思フナラバ、先ツ血判ヲ為サイ、是ハ容易ニ人ニ漏スベキ事デナイカラ、血判ヲシタラバ、抛ナク告ゲマセウ」ト言ツタラ麻田ガ

其通りニ血判ヲシマシタ。ソレカラ高野ト平尾ガ其事情ヲ告ゲタサウデゴザイマシタガ、麻田ノ血判シタモノハ今高野ガ持ツテ居ルト言ヒマシタ。ソレカラ七名ガ最後ニ能ク申合セマシテ、三野村ニ「誠ニ三井家ハ幸運デ、維新後東京ノ豪家ガ続々トシテ倒産スルニモ拘ラズ、三井家ノ今日ニ至ツタト云フモノハ、一ハ三井家御先祖ノ遺靈、一ハ手代一同ノ努力デ此ニ至ツタノデアアル、併シ今後ドウカスウ云フ事ノナイヤウニ、成ベク守成ノ方針ヲ取ツテ、余リ手ヲ拵ゲヌヤウニシテヤツテ行ツタナラバ、他日斯ウ云フ事ハナカラウ、専ラ其方針デヤツテ行ツタラドウダラウカ」ト言ヒマシタ所ガ、三野村ハ「誠ニ一同ノ意見ハ好イカラ、是カラ協力シテ其方針デヤラウ」ト云フコトヲ言ハレマシタ。ソレカラ貢米ノ事デゴザイマス、此貢米ガ先ニ行ケバ宜カツタノデゴザイマスガ、後ニナツテシマツタ、ソレデ此騒ギガ出来タ。

各県下デ、県へ上納シマスル租税金ガ、皆米ヲ売ツテ金ニ換ヘルノデゴザイマス。所ガ米価ガ安イモノデスカラ、各府県ノ人民ガ皆困窮スル。三野村ノ考デハ、ソレヲ安ク売ラセヌ方法ニシテ、其便ヲ計ラウト云フノガ大蔵省へノ稟議デアアル、ソレニ付テハ米ハ物産会社ノ方デ引受ケテ、或ハ抵当ニスルナリ、若クハ外国へ輸出シテモ宜イカラ、成ベク米ノ価格ヲ維持スル方法ヲ取ラウヂヤナイカ、サウスレバ其間三井組モ大キニ便ヲ得ルコトデアアルシ、物産モ利益デアルト云フノデ、此規則ハ私共持ツテ居マスケレドモ、ナカノ長イ規則デゴザイマス、益田サント三野村トノ協議ノ上デ成立チマシタ。差向キ名古屋、岐阜、三重、滋賀、此

四県下デ百万石程ノ目的ヲ付ケテ、金ハ爲換金又ハ貸金、総テノ事ヲ三井銀行カラ出ス、三井銀行ノ切符ヲ以テ授受スルコトニシヤウ、荷物ノ扱ハ総テ物産会社ガ担当スルト云フコトデ、私ハ監事補ト云フ役目デ此四県下ニ出張ヲ命ゼラレマシテ、差向キ名古屋ト四日市ヲ根拠トシテ彼処デ奔走シマシタ。此當時麻田左衛門ガ九州へ出マシタ。ソレデ着々之ヲヤリカケマスト松阪ノ暴動ガ起ツタ。是等ノ事ハ岡サンモ詳シク御承知デゴザイマセウ。

(岡) 詳シクモアリマセヌケレドモ、大体ノ筋ハ知ツテ居リマス。

暴徒ガ突然ト松阪ノ支店ヲ襲ヒ、戸障子ヲ積ミ上ゲテ、ソレニ石油ヲ注イデ火ヲ放チ、病院、学校、警察、到ル所破壊セザルナク、大變ナ騒ギヲヤリマシタ。

(岡) 九年ノ十二月デゴザイマシタカ。

十二月デゴザイマス。

(岡) 藤田徳三郎ガ山田ニ居ツテ、彼カラ詳シク聴イタコトガアリマシタ。

左様デゴザイマセウ。三重県令ガ岩村定高、トテモ警察ノ力デ行カヌカラト云フノデ士族ヲ募ツテ路ニ之ヲ防イダ。暴徒ハ路ヲ伊賀路ニ転ジテ、津ヲ措イテ四日市ニヤツテ来タ、四日市ヲ庄倒シテ猖獗ヲ極メタ。丁度私ハ四日市ニ居リマシタ、風邪デ引籠ツテ居リマシタガ、モウ四日市ニ暴徒ガ来テ奈何トモ仕様ガナイカラ、急ニ名古屋ニ逃ゲテ来テ、名古屋デ安場サンニ会ツテ「何トカシテ保護ノ方法ヲ講ジテ戴カスト、各銀行支店皆ヤラレテシマ

ヒマス、松阪ハ現ニ一物モ持出サズヤラレテシマヒマシタ、ダカラ何トカシテ防禦ノ方法ヲ御考案ヲ願ヒタイ」「イヤお前ガ言フ迄モナク、私モ今考へ中ダ、トテモハ警察ノ力デハイケナイカラ、三重県デハ士族ヲ募ツタト云フガ、当県デモソレヲヤラヌデヤナラスカト思フ」ト言フテ居ラレマシタ。ソレデ私ハ「何トカ一ツ御考ヲ願ヒタイ」ト言ツテ置キマシテ、直ニ鎮台ニ行キマシテ、名ハ忘レマシタガ副官デゴザイマシタ「台兵ヲ出シテドウカ防イデ戴キタイ」ト言ツタラ「お前ソナ事ヲ言ツテモソレハイカス、竹鎗蓆旗ニ台兵ヲ出スナド、ソナ馬鹿ナ事ヲ言ツチヤ困ル」「ケレドモナカク惨状ヲ極メルノダカラ、何トカ御相談ヲシテ頂キタイ」ト云フト「第一ニ兵ハ陸軍卿ノ命令ガナケレバ、三井ガ来ヤウガ県令ガ来ヤウガ、ソナ事デ出セル訳ノモノデナイ」ト云フ、ソレハ成程御尤ダ、ソレカラ私が帰ツテ来ルト、又県カラモ鎮台ニ交渉ニナツタノデスケレドモ、矢張聴キマセヌ。其晩ニナツテ陸軍卿カラ電報ガ来マシテ、即時一大隊出マシタ。デ四日市ニ向ツテ、往々空銃ヲ放ツタノデス、サウスルト暴徒ハソレヲ聴キマシテ、四散隻影ヲ留メズト云フ有様デ、忽チ是ハ鎮マツタノデスガ、殆ト名古屋ノ津島ト云フ所マデ来マシタ。其時惜カツタノハ、松阪ノ則右エ門様ノ御宅デゴザイマス、御住居ガ直グ隣家デゴザイマシテ、十二疊バカリノ御座敷ニ名研ガ百陳列シテアツタノデ、百研山房ト云ツテ誇ツテ御出デニナツタ、ソレガ悉ク焼ケテシマツタ、非常ナ御損害デゴザイマス。則右エ門様ハ下屋敷ノ方ニ逃ゲラレマシタ。此三重県ノ暴動ノ為ニ、政

府ガ俄ニ地租ヲ減ジマシタ。

(岡)百分ノ三ヲ二個半ニシタノデセウ。

三重県独リ犠牲トナリ、全国拳ツテ減租ヲ謳歌ストハ此時ノ事デス。

(岡)併シエライ事ヲヤツタモノデスネ。

甚ウゴザイマシタ、詰リ米ノ買入ガ効イタノデス、サウハ言ハレマセスガ、事実ヲ言フト、矢張三井組ガアノ暴動ハ拵ヘタノデス。三井家ハ人民ノ為ニシタノデスケレドモ、サウ云フ事ヲ知ラヌ者ガヤツタノデセウ、三井ガ来テ米ヲ買フカラ、米ガ上ルト云フノガ一ツノ理由デゴザイマス。其翌十年ノ春、此暴拳ニ関係シタ者ハ、四日市ノ倉廩ヘ監禁シテ、殆ド幾千ト云フ人ヲ処分シマシタ。其時分ハ警ヲ答ツノデゴザイマス、三十打ツノモアリ、五十打ツノモアリ、罪ノ軽重ニ依テ打ツテ放免スル、随分ソレハ甚イ騒デゴザイマシタ。私ハ復タ出張シテ四日市ニ居リマシタガ、其事ガ済ミマシテカラ、又貢米ノ方ノ扱ヒニ着手シマシタ。物産会社ヘモ時々往復スルシ、益田サンモ京都ノ御婦リニ、此時始メテ四日市ニ見エマシテ、私ガ海岸ヲ案内シタコトガゴザイマス。日暮ニ舟子ガ荷役ヲシテ、歌ヲ謡ヒナガラヤツテ居ツタモノダカラ「成程夜荷役ヲスルナンテ、ナカノ盛ナモノダ、私ハ兼テ聞イテ居ツタガ、是程デハナカラウト思ツタ、是ハ将来有望ナ港ニナル」ト言ハレマシタ。能ク種々ノ事ヲ御相談シマシテ、其翌朝益田サンハ東京ニ歸リマシタ。

追々順境ニ向ツテ、米モズンノ買上モスルシ、万事都合好ク參

ツタ所ニ、又一大警報ガ来タノデゴザイマス、今度ハ鹿児島ノ土族ガ熊本城ヲ襲フト云フ。サアモウ其報知ガ来ルト、米ノ値ハ引上ガル一方、アノ当時玄米ガ伊勢ノ上米デニ斗四、五升デシタ、ソレガ五升モ上ツテシマウト云フ有様、到底注文通りノ事ヲナスコトガ出来マセヌ。ソレデモ暫クハヤツテ居リマシタガ、日一日ト上ガルモノデスカラ、ドウモ仕方ガアリマセヌデ、彼方此方奔走シテ居リマス、本店ガ又金ガ逼迫ト云フ事ニナリマシタ、陸軍省ハ預金ヲ一銭一厘モ余サズ引上ゲル、戦域ガ段々広クナルニ從ツテ、大藏省ハ各県ヘ命令シテ予備金ヲズンノ引上ゲル、此逼迫ガ丁度小野組以来三回目デゴザイマス、三井家ノ金ニ困難ヲ致シマシタコトガ……。私ハ始終伊勢ニ居ツテ金策ヲヤツテ居ツタケレドモ、京都・大阪ガ其衝ニ當ツテ、迎モ支店ガ保チ切レヌト云フノデ、本店カラ電報ニ接シテ東京ニ歸リマシタ。三野村ノ言ハレルニ「京阪ガ非常ナ困難ヲシテ居ル、ドンナ手段ヲシテモ宜イカラ五、六万ノ金ヲ京阪ヘ送レ、ソレヲ送ツテヤラスト、今本店デモドウシテモ金ノ工面ガ付カヌ、手段ハお前ニ委セルカラ、何トデモシテ金ヲ送レ」ト云フコトデシタ。ソレカラ私ハ三重県ニ歸ツテ、支店長ノ荒木五兵衛ノ所ヘ夜參リマシテ「京都ヘ金ヲ送ラネバナラス、ドンナ手段ヲシテモ宜イノダ、市中ヲ借り集メテモ宜イ、ソレダケノ内意ヲ私ガ含シテ居ルノダカラ、ドウニカシテ集メロ」ト言ツタ所ガ、荒木ノ言フニハ「市中デ集メルト云ツテモ、五、六万ノ金ハナカノ難シイデセウ、県庁ニ金ガアラウト思フカラ、県庁ノ金ヲ借りヤウヂヤアリマセヌカ」ソ

レハ借りラレルナラ誠ニ都合ガ好イ、「ケレドモ只ハ貸シマセヌ、何カ抵当ガ無クテハ貸シマスマイ」ト云フ。「ソレデハ四日市ニアル倉庫ヲ封印ラ附ケヤウヂヤナイカ、其事ヲ申立ツタラドウダ」ソレカラ荒木ヲ県庁ニヤツテ、県官ニ懇意ナ者ガアルカラ内談シマシタ。「サウ云フ場合ナラ一時県ノ金ヲ出スコトニシヤウ」ト云フ、都合好ク八万円アリマシタ、ソレカラ四日市十何箇所ノ倉庫ヲ封印シマシタ、所ガ其米ハ物産カラ大藏省へ売上カ何カニナツテ、輸出スル米デゴザイマスカラ、行抜ケニナツテ居ルモノデゴザイマシタケレドモ、ソレヲ一時県官ニ立合セテ封印ヲシマシテ、八万円借出シテ、夜京都ニ送ツテヤリマシタ。京都ノ重役ガ大層喜ビマシテ、此金ガ無イトドウシテモ明朝ハ体面ヲ傷ケナケレバナラス、一時店ヲ閉メナケレバナラス場合デアツタガ、誠ニ伊勢ノ送金デ危急ノ場合ヲ凌イダカラト、厚ク礼ヲ言ツテ寄越シマシタ。本店へモ電報ヲ打ツタラ、大層取計ヒガ宜カツタト云ツテ、三野村カラ私ヲ賞メテ寄越シマシタ。

余リ京阪ガ金ガ逼迫ダト云フ事デゴザイマスカラ、一遍京阪ニ出テ、重役ニモ会ツテ諸般ノ打合セヲシヤウト思ツテ、私ハ京都へ参リマシテ重役ニ会ヒ、京都カラ又大阪ニ参リマシテ、大阪デモ重役ニ会ツテ打合セヲシマシテ、北浜ノ花外ト云フ家デゴザイマス、其処ニ私ハ休息シテ居ルト、丁度松本順サンガ来テ居リマシテ、是ハ図ラズ面白イ所デ会ツタト申サレテ、二階デ色々御話ヲシマシタ。其節今朝木戸侯ヲ往ツテ診察シテ来タ、惜イケレドモ木戸ハモウ旦夕ガ難シイト言ハレマシタガ、薨ジマシタノハソレ

カラ間モナクノヤウデゴザイマシタ。

(岡) アノ戦争ノ時ニ、長田豊次郎ヂヤアリマセスカ、誰カ行ツタノデスネ。

長田ハ無論陸軍ノ担当デゴザイマスカラ、大変働イタノデゴザイマス。

(岡) 大変面白イ事ガアツタヤウニ聞イテ居リマシタ、臨機ノ所置ラヤツテイロノ手柄ヲ立テタ。何カ御聞及ビノ事ハアリマセスカ。

私ハズツト伊勢ニ居リマシタモノデスカラ、余リ密接ニ関係シテ居リマセスカ、長田ハ陸軍一般ヲ受持ツテ、卿サンヲ始メ愛顧ヲ受ケテ居ツタモノデスカラ……。ソレニ酒ノ附合ヲ能クシマシタ、酒ガ非常ニ強イ、最後ニノメツテシマウマデ飲ンデ居ルノデス。彼ハ兩替店出身デアリマシテ、ヤハリ江戸ッ子デゴザイマス、随分失敗モ多イ男デシタケレドモ、陸軍ノ方ハ宜シウゴザイマシタ。日本全国ノ金ガ八千万円、其中陸軍省ガ八百万円デシタカラ、殆ト収入ノ一割以上陸軍ガ持ツテ居ツタノデ、預金モ莫大ナモノデゴザイマシタ。

(岡) 地方々々ニ依テ状況ガ違ヒマセウガ、各店デ官金ヲ店ニ預リマスト、ドウ云フヤウニソレヲ融通シテ居リマシタカ。

多ク其県々ノ扱ヒニ委セタ、殊更逼迫ダト云へバ、一時融通シ合フコトハアリマシタケレドモ、三重県ナラ三重県ノ預金ヲ本店へ廻ハスト云フ事ハナイノデス。——此当時ノ表ハ皆ゴザイマセウ。

(岡) 詳シクアリマス。

私モ半季純益決算表ハ持ツテ居リマス。各支店ノ状況ヲ知ツテ居ナケレバナラスカラ、銀行デ要ルモノハ妻ニ言ヒ付ケテ皆一部ツ、書カセマシテ、半期決算表ナドハ有ツテ居リマス。

(岡) 其金ヲ自由ニ貸付ケタモノデスカ。

サウデス、抵当サヘアレバ……。ケレドモ三井家ノ松阪ト云フ所ガ困難ナ所デ、ドウモ滞リ貸ガ多ク出来テ非常ニ困ツタデス。松阪ハ井田ガ主任デゴザイマシタ。

(岡) 井田ノ遣リ損ツタト云フノハドウ云フ事ナノデス。

アレハ井田一平一己ニアノ責ヲ負ハセルノハ当ヲ得ナイノデゴザイマス。

(岡) 抑々ドウ云フ事ナノデスカ。薄々私モ聴イテ居ルガ、御記憶ナラ伺ツテ置キタイ。

私共井田トハ親密デアリマシタガ、今井ガ元ト井田ト親密ノ間柄デアル、仮ニ兄弟分ト言ツテ居ツタ位デスカラ、ソレデ今井ガ多ク井田ヲ主ニシテ居ルト云フコトハ三野村ガ知ツテ居ルノデ、其内情ヲ探ル為ニ私ヲ彼方ニヤツタノデゴザイマス。所ガ又ソレヲ知ツテ居リマスカラ、今井ハ今井デ私ニ種々ノ注文ガ出ルノデス。ソコデ私が検査ニ参ツテモ、余程ヤリ難イ場合ガアル、偏セズ党セズデヤラナケレバナラスノデスケレドモ、当時往々サウ云フ事ガアツタノデゴザイマス。重役ト云ツテモ齋藤ハ誠ニ篤実温厚ノ人デ、総テ公平ヲ守ツテ、三井家ノ人望ハ齋藤一身ニ集ツテ居ツタ、齋藤ノ言フ事ナラ誰モソレニ背ク者ハナイ、是ハ実ニ其

當時ノ柱石、三野村モ齋藤ノ鑑デ入レタ位ダカラ、齋藤ノ言フコトナラ誰デモ服ス。井田ハ旧来松阪ノ支配人ヲシテ、アノ地方一般ノ事ヲヤツテ居ツタモノデスカラ、例ヘバ自分ヨリ以下ノ者ガ失策ヲシテモ、其實ハ決シテ以下ノ者ニ被セナイ、自分ノ一身ニ皆負ウテヤルト云フヤウナ男デ、ナカ々々勉強家デゴザイマシタシ、又事理モ能ク分リマシタ。其當時私が重要ノ事ヲ計ツテ即答ノ出来ルノハ、本店デハ平尾賢平、彼地デハ井田デゴザイマシタ、此二人ハ普通三井家ノ社員トハ少シ異ツテ居リマシタ。本店ガ金力逼迫ダカラ、本店ニ金ヲ廻シタイガト言フト、井田ハソレナラバ名古屋ニ此位空イテルダラウ、岐阜ニ此位空イテルダラウ、四日市ニモアルト言ツテ、方々ニ電信ヲ打ツテ集メテ、直ニ私ノ要求ニ従ツテ呉レルト云フヤウナ工合デシタ。彼所ニ多額ノ滞リガ出来テ居ツタモノデスカラ、ソレデ大ニ名前ヲ悪クシタノデスケレドモ、其今井ト井田トノ内情ニ付テハ、サウノく立入ツテ私が申ス訳ニハ行キマセズ、余程困リマシタ。

(岡) 余程滞ツタノデスカ。

松阪地方ニ三、四十万デゴザイマシタカ、或ハモウ少シ多額ニ上ツテ居リマシタカ、ソレハ大元方ノ損失ト云フ事ニシテ、追々ソレヲ消ス事ニナリマシタ。其中ニ飛驒ノ銀山ト云フモノガアツテ、其當時ナカノ銀ガ出ナクテ、アレハ損失ノ部ニ見做シテアツタガ、私ハヨク存知マセヌガ、其後飛驒ノ銀山ハ幾ラカ回復シテ、利益ガアルコトニナツタ、井田ノシタ事ガ強チ十ガ十、悪イ訳デモナイノデス。井田ハ併シ壯健ナ人デ、マダ達者デ居リマセウ。

(岡) マダ達者デ居リマス。

七十五、六ニモナリマセウカ。

(岡) 何カ三井家ニ対シテ、面白クナク感じテ居ルヤウナ事ハナ
イノデスカ。

失策ガアリマシテ、暫ク三井家ノ奥ノ倉へ監禁シタ事ガアルノデ
ス。

(岡) 左様ダサウデスネ、何ダツテ監禁ナドシタノデセウ。

ドウモアレガ余リ錯綜シテ居ツテ、私ニモ事実ガ分リマセスカ、
矢張三井家デ告訴シマシタカ、或ハ他デ告発シタモノデスカ、三
井家ノ監禁ヲ解カレテカラ、又暫ク裁判所ノ方ノ監禁ヲ受ケマシ
タ、私ハ何カデ証人ニ出タコトガアリマス。

(岡) ドウ云フノデス、少シハ御聞及ビノ事ハアリマセスカ、監
禁サレタト云フコトハ聞イテ居ルガ、事実ノ真相ヲ得タイト思
ツテ、皆サンニ時々聞イテ見ルケレドモ、能ク分ラヌデス。

誰モ知ツテ居リマスマイ。能ク井田ガ不平ヲ言ヒマシテ、斯ウ云
フ事情ダカラ、ア、云フ事情ダカラト言ハレマシタガ、去レバト
テ私ガソレヲ聞イテ重役ニドウ斯ウト云フ場合デモナシ、三野村
ト今井トノ確執ガ第一ニアツタ、ソレデ非常ニ都合ガ悪ウゴザイ
マシタ。井田ノ監禁サレマシタノハ、少シク私ハ氣ノ毒ニ感じテ
居リマシタ、サウ云フ場合ヂヤナイノデゴザイマス。

(岡) 何時頃ノ事デスカ。

十一、二年頃デハアリマセスカ。

(岡) ソレデハ大三野ガ死ソデカラ後ノ事デスカ。

慥カサウデス。ソレデモアノ時ハ西南戦争ノ時ノ逼迫ガ漸ク了ツ
テ、三井家モ少シ楽ニナツタ時デゴザイマス。何カ國家ニ事ガア
ルト、御用商人ハ必ず利益ガアルノデス、大倉ニシテモ、川崎ニ
シテモ、第一岩崎ハ是ガ為ニ出来タノデス。所ガ此西南ノ役ニ困
ツタノハ三井家一軒デゴザイマセウ、預金ハ皆引上ゲラレテ、他
ニ何モ利益ガ無い、物産会社ハ幾ラカ利益ガアツタカモ知レマセ
スカ……。

(岡) 唯々戦地ニ行ツテ、戦地ノ金ノ御用ヲ勤メタノデセウ。
金ハ本省デ引上ゲテ、ズン／＼彼地へ送ツテシマウノデスカラ：
…。

(岡) 其金ヲ彼方デ方々へ渡ストカ、其金ノ勘定ナド云フ事ハ三
井デヤリハシマセスカ。

ソレハ六、七名出マシテゴザイマス、其取締ヲ長田ガヤツタノデ
ゴザイマス、サウ私ハ存ジテ居リマス。

(岡) 大三野ト云フ人ハ、詰リ三井ノ一番困難ナ時代ヲ、ドウカ
斯ウカ旨ク統ケテ行ツタ人デスネ。

アレハ私ハ斯ウ考ヘテ居リマス、両替店ダケデ御用所ニ三野村ガ
居ナケレバ、丁度中井新右エ門ノ四段モ上ノ所ニ三井家ガ行クノ
ダラウト思フ、齋藤ガヤツテ行ツタナラバ、無事ニ中井新右エ門
ノ中井銀行ノ上ニ立ツテ三井組デヤツテ居ル。御用所ニ三野村ト
云フ人ガアツタ為ニ、合併ヲスルコトモ出来、政府ノ御用モ此所
マデ多クナツタ、従ツテ三井銀行モ出来タ。サウナノデゴザイマ
ス、三野村ガ無ケレバ小サイモノデゴザイマス。其代リ三谷ニ三

十六万兩貸スヤウナ事モシハシマセスシ、決シテ金モサウ有ル筈ハナイ、三野村ガ入ツテ政府一般ノ出納御用ヲシタ為ニ、三井ガ大キクナリ、随ツテ利益モ大キクナツタノデ、三野村ガ始メテ此銀行ヲ立テル迄、日本ニ私立銀行ハナイ、三井ガ抑々日本ノ銀行ノ初デゴザイマス。

(岡)サウシテ其大キイ規模ニヤル事ヲ、益々其方針デ続ケテ今日ニナツタト云フ訳デセウ、路ヲ開イタノハ矢張大三野ト云ツテ宜イノデゴザイマセウ。

サウデストモ、三井家中興ノ開拓者デゴザイマス。併シ其當時三野村ヲ見タノハ齋藤ダカラ、齋藤ハ豪イト人ガ言ツテ居リマシタ、ソレハ事実サウニ違ヒゴザイマセス。三野村ト云フ人ハ、歴史デ見マスト丁度北条早雲デゴザイマスナ、私ガ考ヘルニ、ドウモア、云フ風ノ人デゴザイマス、人ヲ使役スルコトハ上手デシタ。又自分ガヤレルノデゴザイマスカラ、お前出来ナケレバ己ガ行ツテヤルガ、マアお前行ツテヤツテ見ロト云フヤウナ調子、ソレヲヤツテ来ルト非常ニ喜ブ、ナカ／＼人ヲ使役スルノガ上手デシタ。ソレデ私共纏持ニナツテ、始終水火モ辞セズヤツタ方デゴザイマス。

ソレカラ明治十年ニ第一回ノ内国勸業博覧会ガゴザイマシタ、アノ時ハ博覧会ノ総裁ガ大久保公デアリマシタ。当時私ハ府県係、地方ニ出ル時ハ監事補デ、帰ルト府県係取締。各県ノ知事、令、書記官、一、二等属位ガ統々参リマシテ、殆ド何百人ト云フ人デゴザイマシタ、其宿泊ヲ皆私ガ心配シテ拵ヘルノデ、殆ド応接ニ

暇ナシト云フ有様、非常ニ忙シウゴザイマシタ。此時陛下ガ親シク地方ノ民情ヲ御問ヒニナルト云フノデ、此博覧会中ニ愛知県令安場保和サント、滋賀県令籠手田安定ヲ御召ニナリマシタ、是ガ地方官デハ初メテダサウデゴザイマス。宮内省ヘ出マシテ、親シク陛下ニ地方ノ民情ヲ奏上シタ。丁度帰リマシタ時ニ、両方トモ私参リマシタラ「今日ハ始メテ天顔ニ咫尺シテ、親シク民情ヲ奏上スルコトガ出来テ有難カツタ」ト大変喜ンデ居リマシタ。ソレカラ後続イテアル積ダツタノデスガ、ドウ云フ訳カ宮内省ノ御都合デ、後ハ御中止デアリマシテ、他ノ県知事ハ大イニ失望ノ体デゴザイマシタ。併シ陛下ノ事ニスレバ、同ジ事ヲ皆聞クノデゴザイマスカラナ。

(岡)大三野ノ御葬式ハ大変ナモノダツタト云ヒマスガ、ドンナデシタ。

深川ノ宅カラ出シタヤウデス、私ハ伊勢ニ居ツテ会葬シマセスデシタ、帰ラウト思ツタラ、彼地ニ用向ガアツテ都合ガ出来マセスデ……疽ト云フ病デスナ、私ハ伊勢ニ居ツテ其報知ヲ得テ、哀悼ノ情ニ堪エマセスデシタ。アノ人ガ死ンデカラ、何か打突ツテヤル勇氣ガ無クナツタノデゴザイマス、本店ヘ来テモ、森藤五郎ダノ麻田左ニ平ナド、云フ、曾テ賊ノ入ツタ時ニ、台所ノ戸棚ニ隠レテシマツタヤウナ重役ニ、何か談ズルノガ物足りナイヤウナ感ガスルモノデスカラ……。

(岡)利助ハドンナ人デシタ。

利助サンハ極穩カナ人デ、御承知ノ西邑虎四郎ト共ニ、今ノ南様

ノ従者デスカラネ。ヤハリ齋藤ガ京都カラ連レテ参ツタノデス、今井モ大阪カラ齋藤ガ連レテ来タノデ、皆齋藤ノ世話ニナツテ居ル。今絵ヲ画イテ盛ニ名ヲ売ツテ居ル川端玉章ナドモ、前ノ高福サンガ此方ヘ御出ノ時ニ、初メテ此方ニ附イテ来マシタ。川端ガ金銀ノ式紙ヘ十二月ヲ描イテ「困ルカラ是ヲ何処カヘ買ツテ貰ヒタイ」「原価幾ラダ」「一円五十銭アレバ結構デス」ト言ツタヤウナ訳デ、色紙ヲ榛原カラ買ツテ来テ、自分デソレニ十二月ヲ書イテ一円五十銭、「ドウモ川端ノ絵ハ余リ感心シナイ」ナド、言ツテ、容易ニ人ガ買ハナカツタノデス、ソレガ今デハアンソニナツテシマツタ。今考ヘテ見マス、三野村氏モ三井家ヘ入ツタカラコソアレダケノ財産ガ出来タ、油ヲ売ツテ居ツタノデハ逆モア一ハ行キマスマイ。ソレカラ昨日御話ガゴザイマシタ佐瀬得所ノ看板デゴザイマス、昨夜私ハ寝テ居ツテ能ク考ヘマシタガ、アレハ削ツテシマツタノデゴザイマス、ドウモサウ思ヒマス、削ツテソレニ三井銀行ト云フノヲ書イタ、神戸新五右エ門ガ書キマシタ。ダカラモウゴザイマスマイ、サモナケレバ、必ズ何処カヘ存シテ居ナケレバナラヌ管デス。木ガ良ウゴザイマスカラ、ソレヲ削ラセテ其後ヘ三井銀行ト書イタト思フ。

(岡)海運橋ノ橋名ハ高福サンガ書イタノデセウ。

サウカモ知レマセス、ツイ私ハ心付キマセス。高福サンハアノ當時ハ能ク絵ヲナイマシタガ、後ニ又大分書ノ方ヘ力ヲ御入レニナリマシタ。三井家ノ旧来ノ主人方デハ、アノ方ガ終デゴザイマスナ、良イ御方デシタ。私京都ヘ参ツタ時ニ、西南戦争ノ最中デ

ゴザイマシタ、木屋町ノ御宅デユックリ御話ヲシマシテ、色々頂戴シタ事ガゴザイマス、写真モ戴イテ持ツテ居リマス。

(岡)西邑虎四郎ハ、明治十年アタリニハ相当ノ位置ニナツテ居ツタノデセウネ。

大阪ノ重役デシタ、利助サント極仲善シデ、每晚酒ヲ飲ミマシテ、皆退イテシマツテモ二人ハ残ツテ酒ヲ飲ンデ、翌朝迄飲ンデ居ルコトガアル、何方モ二升位飲ムノデス、サウシテ話ガ長クテ、昨夜ハ夜ガ明ケテシマツタナド、云フ事ガ度々デアリマシタ。お燭ヲスル人ガコボシマシテナ「アノ二人ニ寄ラレテハトモ仕方ガナイ」ト云フ、京阪地方ノ人ハ能ク酒ヲ飲ミマス。

(岡)一体ニアノ時代ノ人ハ皆飲ンダヤウデスネ。

猪口デチビノ何時迄モヤツテ居ル。三野村氏ハナカノ勇氣ガアリマシタ、下屋敷ノ頭名神社ヤ何カノ時ニ、社員ヲ集メテ、裸体ニナツテ相撲ヲヤル。私ハ能クヤリマシタガ、ドウシテモ三野村ニハ勝テマセス、強ウゴザイマシタ。永田甚七サンガ肥満シテ居リマシテ、下手ナ小結位ニ見エルノデス、所ガ弱クテ、何時デモ私ハ永田ヲ投ゲマシタ。当時私ハ小サウゴザイマシタケレドモ、十七貫幾ラト云フ体量ガアツタカラ、永田サントハ能ク取組ミマシタガ、永田サンハ始終負カシマシタ。三野村ニ打突カルト、大関ト小結位デ、角力ガ取レナイ、私ガ一番ヤラウト云ツテ裸躰デ出テ来ル、勢ガ宜ウゴザイマシタ。

(岡)今ソナナ重役ハアリマセヌネ。

坐ルト氣ニ入ラナイ、立ツテ、何か話ヲスル、其処ヘ坐ツテ頭デ

モ下ゲタラ、下ゲテル中ニズン々々逃ゲテ行ツテシマウ。「頭下ゲテ物ヲ言ウヤウナ奴ナラ、聴イタツテ碌ナ用ハ無イ」ト斯ウ云ウ調子デスカラ「オヤ、三野村サンガ居ルト思ツタラ、何処カヘ行ツテシマッタ」ナド、云フ位デ、ソレハ随分激シイ爺デゴザイマシタ。私ハ京都ヘ行キマシテ、京都ノ御宅々へハ皆出マシタ、先ノ高朗サンガ「松島ハ書画ガ好ダカラ、倉ニアルカラ誰カニ出サセテ一日見テ行ケ」ト仰シヤツテ、倉ニ入ツテ書画ヲ拝見シマシタ。其翌日出水サンニ行クト、旦那ガ何処カヘ出テ居ラシツテ、私ガ參ツタ時ニ御婦リニナリマシタ、サウスルト残ラズ台所ノ者ガ出テ、表カラズツト土下座デゴザイマス、履物ハ脱イデ足袋既足デ土下座デゴザイマスカラ、大変鄭重ナモノダト思ツテ、初メテ彼処デ三井家ノ旧来ノヤリ方ヲ見マシタ。所ガ東京ニ御出デニナリマス、アノ銀行ノ規則ニ、共ニ社友トナツテ云々ト云フ事ガアリマス、アノ事ヲ能ク三野村ガ言ツテ、「是マデハ主人、旦那ト云ツタ、今日以後ハ社友デ、銀行ノ成立ツタ以上ハ社友ダカラ、サウ旦那ノヤウニ御辭儀ヲシテヤツテ居ツテハ用ガ足りナイ、能ク其辺ハ心得テヤレ、併シ旦那ニ向ツテ不敬ナ事ヲシテハナラヌカラ、礼ハ守ラヌケレバナラス」ト云フコトヲ能ク注意シテ申シマシタ。

追補談片

家田ノ碑ガ真盛寺ニアリマス、私共函館ニ居ル時分、十二円五拾錢ツ、建碑費用ノ割前ヲ出シタコトガアリマス。

鈴木利平(幸堂得知)ガ横浜カラ「今夜ヒケ後兩國ノ信濃屋へ来イ」ト云フ電報ヲ打ツタ所ガ、私ガ恰度居ラナカツタモノダカラ、三野村ガ自分デ披封シテ「松島、是ハ何ダ」、「今夜ヒケ後兩國ノ信濃屋へ来イト云フノデセウ」「用件ハ何ダ」「用件ハ何ダト云ツテ、行ツテ見ナケレバ分リマセヌ、唯来イト云フダケデス」「口ノ達者ナ事バカリ言フナ」ト叱ラレタコトガアリマス。信濃屋ハ其頃私共ノ倶楽部デ、三野村ハ知ラナイ処、極親友ノ閑ヲ偷ム処デシタ。

(岡)今謂フ待合デスカ。

船宿デゴザイマシタ、方々奔走ヲシテハ、其処へ寄合ツテ一杯ツ、ヤルノデスガ、モウ十五円、二十円ノ給料ハ、貰フ時分ニハ有リハシマセヌカラナ。

能ク小言ヲ言ハレマシタ。三野村ノ宅ト私ノ深川ノ宅ト隣リ合ツテ居ツテ、庭カラ始終来ル、茶ヲ出ス、酒ヲ飲マスカラ菓子ヲ出ス、サウスルト皆食ベテシマウ、食ベテシマツテカラ小言ヲ言フ「ドウモ贅沢ダ、此茶ハ幾ラダ」「三円デス」「三円ノ茶ヲ飲ンデコンナ菓子ヲ食フ、贅沢ダ」「アナタハ贅沢々々ト云フケレドモ、人生ハ五十年、二十五年ハ寝テル位ノモノダ、アトノ二十五年デ働クトスレバ、楽ム間ト云フモノハ幾ラモナイ、菓子ノ小言ナド言ハヌデモ宜ウゴザイマス」ト云フト、笑ツテ帰ツテ行ク。

(岡)今ノ利市ト云フノハ如何デス。

三野村ノ惣領娘ノ婿デス、三野村家ハ利助ト利市ト両方アツタ。利助ハ利左衛門ノ跡ヲ継ギ、利市ノ方ハ娘ニ養子ニナツタノデ

ス、今ハ矢張り二軒ニナツテ居リマセウ。

此間陛下ガ川越ヘ行幸ノ時ニ贈位ニナリマシタ小栗上野、アレト下総ト二人アツタ、アノ二人ニ三野村ハ引立テラレタ。幕府ノ貸付金ノ残務ナドモ小栗カラ出タ。皆私帳面ヲ拵ヘテ居ツタ、旧印ト云フ帳面ガアツタガ、ソレニ十何万カ残金ガゴザイマシタ、終ヒニ其金ハ皆御用所デ使ツテシマヒマシタ、彼方ノ普請ニ使ツタリ此方ノ普請ニ使ツタリ——「之ヲ使ツテハ都合ガ悪イデセウ」、ト云フタラ「ソレデハ私ノ当座ノ中ヘ入レテ置ケ」ト云ツテ、三野村ノ当座ノ中ヘ入レテ使ツタ、ダカラ三野村モソレヲ使ヒマシタラウ。其代リ小栗ノ奥様ハ呼ンデ世話ヲシテ、暫ク深川ニ居リマシタ。

園遊会ノ模擬店ヲヤツタノモ三野村ガ初デゴザイマス、深川ノ別荘デヤリマシタ。後ニナリマスケレドモ香港太守「ベンネッシー」ガ来タ、「グラント」將軍モ来タ、皆三井家デヤリマシタ。アノ時分ハ能ク火事ガゴザイマシテ、風ガ吹クト一晚中寝ナイヤウナ事ガゴザイマシタ、銀行建築ノ出来タ時分ハ、ドコノ室ハ誰ガ受持ツナド、定メテ置イタ。

(岡)初メテ汽車ノ出来タ時ハドシナ氣持デシタ。

三野村ガ「今御殿山デ汽車ヲ見テ来タ」ト云フカラ「汽車ハドシナ風デシタ」「見テ居ル間ニスーット行ツテシマウ、実ニ迅イモノダ」ト云ツテ驚イテ話ヲシテ居ツタ。ソレヨリ甚シイノハ、電信ガ愈々通ル、銅線ガ張ツテアル「ソレヲ押し手紙ガハリガ、ネデズット行クノデセウカ」「サウダラウヨ、誰カ外ニ立ツテ見テ

居ロ」ソレカラ見テ居ルケレドモ手紙ガ行カナイト云フ、極幼稚ナモノデシタ。

前ノ銀行ガ此処ニ出来タ時ニ、向フノ呉服店ガ新築シマシテ、売出シニ三万八千円カ売上ガゴザイマシタ、ナカ／＼盛デゴザイマシタ。

山城屋和助ガ外国カラ「ダイヤモンド」ヲ沢山持テ来テ、貸付ノ方デ二万円許リ貸シタコトガアリマス、アトデ流レテ困リマシタ。

中林寛次郎、是ハ三野村ノ秘書記デ、元ト出水(三郎助)様ノ御附ヲシテ居リマシタ、三野村ノ妾ノ中林リキト云フ者ノ家ヲ継ギマシタ。

今ノ三越ノ先ニ、竹原ト云フ両替屋ガゴザイマシタ、其処ノ番頭デ竹原瓦解後此方ヘ入りマシタ者ガ四五人ゴザイマシタ。其中ノ一番上ノ者デ、苗字ヲ忘レマシタガ何幸兵衛ト云フ者ガアツタ、後ニ三井ノ公債係ノ取締ニナリマシタガ、此人ナドハ古金銀ヲヨク鑑マシタ、盛ニ両替ヲヤツタ家デゴザイマスカラ……。

為換会社デ二百万円ノ「バンク」札ヲ拵ヘタ、アレデハ倍拵ヘタノデス、政府ヘハ二百万円ノ約東デ四百万円拵ヘテ、二百万円融通シタノデスカラ随分大キナモノデス。三野村ガチヨット私ニ漏シタ、左モナケレバ私モ知ラナイ。「番号ニ甲乙ガアル、甲ノ方ハ政府ニ納メタ、乙ハ俺達ガ拵ヘタノダ、内デ知ツテ居ルノハ斎藤ト俺バカリダ、黙ツテロ」ト云フヤウナ事デ、サウ云フ機密マデチヨイ／＼私ニハ漏レルノデス。